学科	福祉
氏名	谷川弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
数当にし				0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

密度の濃い対人スキルの見直しの機会となっているために次を重視してきた。

a.テーマの説明を丁寧に行う b.達成感がもてるよう、できたことを評価する c.弱点は長所でもあることを指摘する d.「いまできないことがあっても良いが、卒業 するまでには克服するよう見通しを持たせる f. 振り返りの時間を大切にする。

テーマ毎に次の流れを作るようにしてきた。 <授業評価の指標>

X回目:①アイスブレーク ② テーマ説明 ③所定のエクササイズ ④振り返り、まとめを作成

X+1回目:⑤まとめをもとに教員が作成した解説 ⑥まとめの小レポート作成, 提出 新しいテーマに移行(①から進行する)

2段構えの構成で、他の学生の考えを知るなど、視野を広げたり、深めることをねらっているが、昨年度の学生の参加状況からは、2段構えでは集中できないこと が考えられた。そのため、次(X+1回目)での振り返りを簡潔にしたり、省くよう調整した。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

成績はDP4 79% DP5 83% であった。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生

学生の自己評価は平均的であるが、DP4は昨年よりも低下傾向であった。

DP4 3.8⇒3.6⇒3.3(学科平均3.5) DP5 技術4.4⇒3.9⇒3.9(学科平均3.6), 表現4.4⇒4.1⇒4.3(学科平均3.6)であった。

関心に関する指標の低下は、同じ内容を同じ方法で行っていることから準備性の違い、あるいは教員との相互作用の質の差とみられる。

最終レポートでは、自分の今後の課題も具体的に述べることが出来ており、的確に実施出来たと考えられる。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

2. プロセス評価

1. アウトカム評価

日々の課題は全員が熱心に取り組めていた。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当	とくになし
性の評価を記入してください。	5.0

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

	授業の質に関しては、下記の様に評価基準と課題の明確さ、内容の分かりやすさに課題があるようであった。 今回のグループに対する相互作用の形成(コミュニケーション)がうまくいっていないことが考えられる。
い。 <授業評価の指標>	評価基準の明確さ 3.3(学科平均3.8) 課題の明確さ 3.3(学科平均3.8)
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	理解しやすさ 3.0(学科平均3.7) 参加機会 4.1(学科平均3.7) 質問の機会 3.8(学科平均3.7)

7. 総括的評価と米年度に向げての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	1年生前期の導入教育としてのねらいは概ね果たせていると思われるが、そのねらいや評価基準が伝わりにくくなっている。 とくに今回のグループでは、ねらいとするところは概ねクリアできていると思われたため、さらに先に進んで実施すべき課題があるようにも思われる。 次年度の課題としたい。

学科	福祉
氏名	谷川弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
家族心理学演習	4	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
BA∃ICU	0	0	0	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

1. 構成の方針

- 学生の自我関与が強くあらわれる科目であるが、参加学生の状況で参加状況が変化するため調整を図る。
- ①まず家族の発達過程において直面しがちな課題を学び. 続いて支援について学ぶ。
- ②発表は家族の発達で1回,家族の臨床的援助で1回,さらに自分で調べてまとめたレポートをもとにした発表1回とし,前年度よりも課題を絞った。
- ③例年通り、すべての課題をオリエンテーション時に提示することで、計画的な学修を促す。
- 2. 進行上の基本的留意点
- ①毎回の議論の主題は発表担当の学生が提案するが、教員としても提案できる主題を準備しておく。
- ②話し合いは学生の進め方を尊重するが、必要に応じて、家族療法の技法である円環的質問の方法を準用するなど、

演習の主題に関連する技法も用いてシステムの活性化に努める。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

1. アウトカム評価

- 1) 教員評価による観点別の出来具合を表す指標は、次のような結果であり、全般に向上していた。 DP1:79%, DP2:77%, DP3:87%であった。
- 2) 学生の到達度評価は次に示すように回復傾向が認められたが、2年前には及ばなかった。

DP1: 新たな知識 一昨年度4.8⇒昨年度3.3⇒本年度3.8(学科平均3.9), 理解の視点4.3⇒3.1⇒3.5(学科平均3.5), DP2: 課題検討4.0⇒3.2⇒3.5(学科平均3.5)判 断4.0⇒3.1⇒3.7(学科平均3.5), DP3:意欲4.0⇒3.1⇒3.8(学科平均3.6)

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

2. プロセス評価

毎回の状況を観察し、学生の意見も取り入れながら、進行していった。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。	カリキュラムマップ上の位置づけに問題ない。
<授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」,自由記述の意見など	

単にお示しください。	昨年度, 学生の授業評価意見として課題の多さが指摘されていたことから, 課題は絞り込みを行った。 授業の質に関しては, 下記の様に平均的であった。 評価基準の明確さ 3.8(学科平均3.8) 課題の明確さ 3.8(学科平均3.7) 理解しやすさ 4.2(学科平均3.7) 参加機会 4.2(学科平均3.7) 質問の機会 4.2(学科平均3.7)
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	プロセスは円滑であり、学生の参加度は改善した。アウトカムも改善傾向にある。今後も、年度毎の学生の参加状況を踏まえ、改善を行っていく。

成状況の総括的評価と課題をお示しください。	プロセスは円滑であり,学生の参加度は改善した。アウトカムも改善傾向にある。今後も,年度毎の学生の参加状況を踏まえ,改善を行っていく。

学科	福祉
氏名	谷川弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育の心理学Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
oX∃ICO	0	0	0		0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

保育の心理学Iでの学びを受け、より実践的な課題を多く取り入れて、子ども理解と保育の理解を進められるように展開してきている。

今回より授業内容を見直し、具体的な事例を元に考えさせる課題を多く含むテキストを用意した。

オリエンテーションにおける説明をさらに具体的にして、ねらい別の評価基準・評価対象・配点を明確にした表を提示した。また、毎回の流れと作業課題を明確に示 して、事前学習を促すようにした。

事後の授業評価での受講動機をみると、多くが「資格取得に必要である(%)」「必修科目である(%)」であって、「関心のある内容である」は %であった。 その後の学生の学習状況を見ると、昨年以上に課題一つ一つについての関与は主体的と判断される。

課題は多くあるものの提出するレポートは絞り込みメリハリを付けた。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった		達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

1. アウトカム評価:

成績は平均85点であった。

DP1-2:88%, DP2-1:72%, DP3-2:93%, DP5:79%

学生の授業評価は下記のように上昇傾向であった。

DP1:新たな知識 一昨年度3.4 ⇒昨年度3.7⇒本年度4.1(学科平均3.9)理解の視点3.3⇒3.6⇒3.9(学科平均3.5).

DP2:課題検討3.2⇒3.6⇒3.7(学科平均3.5)判断3.1⇒3.6⇒3.9(学科平均3.5),

DP3:3.2⇒3.8⇒4.1(学科平均3.6), DP5:技術2.8⇒3.7⇒3.8(学科平均3.6)表現力2.9⇒3.7⇒4.2(学科平均3.6)

2. プロセス評価:

全般に参加度、計画性は高く、学習が深まった印象を持っている。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

性の評価を記入してください。 本年度は、この要求にも積極的に応えることができていた。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

| DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当|実際に子どもと出会う課題があるため,現場で要求される責任と同等のものを求めている点は,学生には厳しく感じる点があると思われる。

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。	教材を改善し、比較的円滑に進めることが出来るようになったと思われる。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。	ポストイットイーゼル®を用いて発表を行ったほか、教員も事前に課題に対する自分の考えを整理したイーゼルを作成して、解説を行った。学生たちの中には、写真として保存して帰る姿も見られ、復習にも役立つことが確認された。
〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質に関しては、下記の様に平均的であった。 評価基準の明確さ 4.1(学科平均3.8) 課題の明確さ 4.2(学科平均3.8) 理解しやすさ 3.9(学科平均3.7) 参加機会 4.4(学科平均3.7) 質問の機会 4.1(学科平均3.7)

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標はやや達成されたという状況であり、学生の受講動機の向上を図ることができた。

学科	福祉学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	科目名 配当学年		必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学 I	1	前期	必修		86

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DX = ICO	0	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること,重点をおいたことをご記入ください。 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

① 学生の授業評価アンケート」(学科ABの全体72名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが72名で100%であって、他の動機は「単位数確保」が 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを「受講動機」(4.17%、「資格取得」「関心」と「GPAアップ」が1.39%であった。キリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始め る必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示する。具体的には、総合人間科学の科目として、専門 分野の科学の基盤となる重要 な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、<評価基準は 明らかであった>の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「19,26,32」で93.90%%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「5,0」で6.10%、無回答 が「0」であった。② 「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を 提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられ、授業へ の参加意識を高める工夫の一つとする。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理 解力を助けるための具体的なメタファーや可能な場合には福祉と関係のある例を用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫する。 ④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫する。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

① 成績を見ると、平均値は83.16点であり、再試対象は3名であった。分布的には、90点以上が20.73%、89~80点が43.90%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達 -た受講者は64.63%であり、79~70点が30.49%、69~60点が3.66%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは34.15%であった。成績で見る限り、知識理解はほぼ 目標に達した。② 学生の達成自己評価を見ると、<知識><理解>に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「5,23,48」と「6, 27. 43」で、92.68%と92.68%で、否定的回答は「少し」「全く」の順(以下同)それぞれ「5. 1」と「5. 0」で7.32%と6.10%であった。③ 専門分野での<検討する力><判 断するカ>に関しては、肯定的回答は「0, 20, 48」と「2, 11, 55」で82.93%と82.93%であったのに対し、否定的回答は「7, 6」と「8, 6」で15.85%と17.07%となった。< 意欲>に関し肯定的回答は「1, 19, 42」で75.61%であり、否定的回答は「13, 7」で24.39%であった。④ さらに専門分野の<技術>と<コミュニケーション、表現カ> の習得に関しては、肯定的回答はそれぞれ「2,9,44」「0,11,43」で67.07%と65.85%であったのに対し、否定的回答は「15,10」と「19,9」で30.49%と34.15%あった。 ⑤ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「1, 18, 47」で80.49%であったのに対して否定的回答は「12, 4」で19.51%であった。⑥ < 職業選択の参考>では、肯定的回答は「1.6.37」で53.66%であったのに対し、否定的回答は「24.14」で46.34%であった。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

| DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当|① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能に することに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、<知識><理解>では7%台であった。しかし専門分野の学習においては 学生の達成自己評価の否定的回答の数値は上がっている。すなわち、<検討するカ><判断するカ>ではそれぞれ15.85%と17.07%、<意欲>では24.39%で あった。<技術>くコミュニケーション、表現力>習得では30.49%、34.15%であった。<倫理・規範>に関しては19.51%であった。② DPの位置づけを検討すると 上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための<知識><理解>及び責任を自覚し倫理に基づく行動がで きるようになるための<倫理・規範>、これらの分野では否定的回答が前者2つは7%台、そして残りが19%台であった。これに対し、専門分野の課題解決のための 論理的思考・判断にかかる<検討するカ><判断するカ>、及び社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける<意欲>並びに、<技術>の習得という専門分野 と、適切な関係を形成する<コミュニケーション、表現力>に関しての否定的回答は それぞれ15乃至17%台、24%台、30乃至34%台である。③ 以上から、CPの位 置づけから肯定的回答は、専門と技能表現の分野では70%台のものもあるが、非専門と非技能表見の分野では90%以上であるので、授業内容は妥当であると考 |える。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られるが、非専門と非技能表見の分野としての授業内容は妥 当であると考える。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡 単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しくださ

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

① 学生からの担当教員へ意見は2件あり、いずれも肯定的で「楽しかった」というものと「すごく説明がわかりやすく、おもしろい授業でした。」というものであった。学習量につき、25人が取組んだ学習内容を挙げ、22人の学生が取組まない理由につき、「何をすれば良いか分からなかった。することがない」(10)、「他にすることがあった」(6)、「授業で十分、きちんと聞いたから」(3)、「予復習でいそがしかった」(2)、「あまり興味が持てなかった」(1)と述べていた。第1回目授業から配布している「自己学習記録」に毎週の「復習の読書テキスト・予習の読書テキストとその時間」を記載する枠を設けたが、奨励が不十分であった。② 学習量の評価を見ると、「回30分以上の予・復習〉6回をそれぞれ7人、6人が実践し、1回以上で6回未満の学生も65人と64人で79.27%と78.05%であった。③ 学業の質評価を見ると、〈学習の範囲や課題は明らかであった〉という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「19、26、32」で93.90%であった。〈理解しやすい〉という項目では、「6、21、34」で74.39%であった。否定的回答の「少しそうでない」「全くそうでない」が「13、8」で25.61%と2割強であった。〈学生の質問への答を得る機会〉では肯定的回答は「11、22、39」で87.80%あり、否定的回答は「8、2」で12、19%であった。〈参加の機会〉では肯定的回答が「4、11、34」と59、76%であり、否定的回答が「27、6」で40.24%であった。④ 学生の授業評価によると、知識・理解を得られるが、理解しやすくない、ということであったと思われる。改善に向け、1)レジメ等の工夫、2)予復習の方法の明確な指示、3)毎回、授業で配布し回収する学生の「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有化を図る工夫をする。

組む工夫をする。③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、学習方法を繰り返し喚起する。さらに、授業を進めるに当

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を今後も明確にし、予習・復習の具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。とはいえ、この科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用の学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野でのく的確に判断するカン及びくその学びを深めたいと意欲をもつ>ことの基盤となるものである。この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。そこで、く6. 授業の進め方とその向上について>の(4)に記載した改善策に取り

たっては、今後もレジメを改善し、学生から回収する「自己学習記録」から学生の授業の理解度をくみ取り指導を工夫する。

学科	福祉学科
氏名	金銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル I	1	前期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

***1-〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に〇	0	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

本講義は韓国語学習歴がない学生を対象に韓国語の基礎を身につける事を目標としている。ハングルの読み方とその正確な発音、文構造の理解、数字の使い方 などの基礎を身につけ上級クラスへ進められる知識と身につけられるよう授業を進めてきた。

学期始めに実施したアンケートで「韓国語を学びたかった」などの積極的な受講動機もあったが、「時間が空いたから」「簡単そうだから」などの動機もあり、学習に対 する姿勢に差がある事が事前に分かったため、興味を持ち続けるよう韓国の小話やk-popを授業に取り入れた授業にした。

また中間試験や小テストの実施で学生の理解を確認しながら授業を進めた。また復習項目と次回講義の予告をする事で自習を促した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

成績平均は76だった。

授業評価においも「知識を新たに得ることができた」で高い満足度が見られ、講義が重点を置いている点と学生の満足とが一致する結果が得られた。

福祉学科は専門科目での学習量が膨大なため、外国語の「ハングル」は出来るだけ授業時間内に完結するような講義構成をした。必須復習事項を毎時間の終わり に提示し、不定期の小テストと中間テストの実施で学生の理解を確認した。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 CP. カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 性の評価を記入してください。

試験の結果で見られるように第二外国語として目標とした成果を挙げられたので、内容的に妥当性があると考えられる。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」,自由記述の意見など

授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。

以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について	
単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。	初級という授業の特徴上、学生間やり取りが難しいが、韓国語会話の時間を増やすなどコミュニケーションの機会を増やすように努めた。
〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	第二外国語として学習歴のない学生を対象に、基本となる話す・聞く・書く・読む力をつけることが目標だった。その目標を達成できたことにより次の「ハングル II 」に 進むに不足しない実力がついたと思われる。来年度も引き続き良い成果を挙げられるようにがんばりたい。

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	3	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該地厂○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に〇	×	×	×	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされるスキルについて、1年生が教員別グループに分かれ、参加型、体験型の演習プログラムを中心として行う講 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを「受講動機」(義である。テーマを4領域に分け、演習を通じて学ばせる。1年生の対人接触サービス業を目指すものとしての、必要なものを習得できるよう工夫した。特に自分を表 |現し、人との関係性を作ることを目的として、とりわけゲームの要素を導入して、個人や集団になってかかわりを持たせるように工夫した。初回講義の時には、この講 義で何をするかということを、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー(内容は休まない、協力する等の再確認)を配布して関心をもたせ た。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させた、

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	先ず考えられることは、欠席	常がほとんどなかったという	ことである。そのことで、学生	この意識をしっかりと受け止る	めることができたと感じている	る。また、リアクションペー

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

パーの中には、大学に入って一番楽しい授業という記載内容のものが多かった。当然それだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒に行って、 この演習の必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学んだことをまとめることができ、理想的レベルまで達成できたものと考える。昨年度の反省で、 講義時間内だけのものになった感じが見受けられたので、今年度は更なる工夫として、現実社会の中でのリアルな状況設定を取り入れることを意識した。特に、障 害者や高齢者、児童等が関係している社会的ニュースの情報提供を行い、そのことを先ずは考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、専門基礎科目でもあり、1年生の福祉、とりわけ対人接触サービスを行う専門職としての スキルを身につける講義として、関係性の重要性を理解すること、そのことを体験として学習してくことを考えていけば、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報 告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても、コミュニケーションスキルの重要性、協力するためのスキルの獲得 もできていると考えられることから、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 い。 〈授業評価の指標> 「授業の関の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など 7. 総括的評価と来年度に向けての課題 達成状況の終済的評価と来年度に向けての課題 達成状況の終済的評価・課題を表示しください。 「大学に入り」1年生で最初にグループ化して「責任ある行動、協力、課題を自営、自己研鑽、コミュニケーションスキル」の理解と始わを高めるための、非常に重要な

7. 総括的評価と来年度に向けての課題 達成状況の総括的評価と課題をお示しください。 大学に入り、1年生で最初にグループ化して「責任ある行動、協力、課題を自覚、自己研鑽、コミュニケーションスキル」の理解と能力を高めるための、非常に重要な 演習だと思う。本演習においては、学生からの自己評価やリアクションペーパーや、最終講義の時の個別報告によって、その達成は理想的レベルであると考えられ る。講義内容もシラバス通りに進行した。次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代と共に求められるコミュニケーション能力も変遷をしていくと考えられる ので、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

±±±1−○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に〇	×	×	×	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

-年前期開講、必修、演習科目であるため、

- 授業計画、達成すべき目標を分かりやすく伝えるよう努めた。
- ②授業の終わりには毎回、各授業の目的を記した用紙にて小レポートを提出させ、学生の意欲、態度、理解度の把握に努めた。
- ③②を踏まえて次の授業での演習方法や目的説明のあり方を調整するようにした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	最終的な成績の平均値は	81.7点であり、単位未修得者	首は0名であった。			

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分

布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

殆どの者が標準レベルに達した。

学生による授業評価においては、全員が「自分なりの目標を達成した」と答えており、1年前期の時点でこのような自己評価ができたことは評価できるものと考えられ る。細部については、知識獲得、視点獲得ができたと答える者が大半であり、専門分野との結びつきを意識しながら取り組むことができたようである。また、意欲のみ ならずスキルを獲得したと思える学生が多くみられたことは、目標達成に繋がったことだと考えられる。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 ①本科目は、一年前期開講の卒業必修科目である。大学の教育方針、授業形式、人間関係に慣れ、一年後期からの「専門科目」の演習群に導入していくための重 要な位置付けがあると考えられる。

②成績評価からは、目標は概ね達成されており、学生の自己評価では達成できたと評価する学生が多くみられたことから、今後の学生生活、専門科目における講 義、演習の履修に大いに役立つ体験が得られたと考えられる。

②以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

単にお示しください。	①授業の質評価において、説明は理解しやすいものであった、の平均が3.5点と比較的低かった。また、質問を受け付けそれに答える機会が作られていた、の平均が3.7点であった。授業毎に小レポートの提出、コメントを付けた返却を行っているが、この小レポートをうまく活用できなかったことが考えられる。学生個々人の理解度を把握し、理解を補っていくために、小レポートの目的と利用方法について十分なオリエンテーションを図り、有効な活用につなげていく。
<授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生からの意見に、課題で充分だったとの意見が見られたが、演習であるため、出席して活動すること自体が重要であると伝えており、「授業内で体験したことを内省し、自己理解を深めていくこと」を目的にした課題提出を求めたためと考えられる。今後も、授業について振り返る時間をとることができるよう課題内容を吟味していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	既ね達成できたと考えられる。 来年度も引き続き、新入学の学生の状況を個人、集団での理解の様子をみながら、より良い授業展開を図っていきたい。			

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名 配当学年		前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	6	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
ix∃ic∪	×	×	×	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

本科目は1年次の必修科目であり、受講動機も「必修科目である」が100%となっている。対人援助の最も基礎的なコミュニケーションカを養う演習科目であり、自 己表現や他者と協働する力を養うことが本演習の主眼となっているため、できる限りグループワークを通して、発表する機会や協力して1つの作業を行う機会を設け た。また初年次の演習科目であるため、楽しみながら演習に参加できるよう、ゲーム性のあるワークも取り入れるようにした。毎演習の最後には必ずふり返りの時間 を設け、学生の感想を次回の演習の冒頭でフィードバックし、全員で学びの共有を図るようにした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された				達成された	どちらともいえない

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

成績の平均点は82.6点であった。点数の開きが大きかったものの、7割を超える学生が8割以上の成績を修めており、概ね目標は達成されたと考えるが、最も基礎 的なコミュニケーションの演習であることを考えると、8割以上の学生が8割を達成できることを次年度以降の目標としたい。到達度自己評価を見てみると、DP4に関 わる「「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」が平均値3.5点と低かった。演習で行われるワークと職業倫理や行動規範とのつながりが実感できるような 工夫が今後必要である。DP5に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は平均値3.9点、「コミュニケーションカや表現 力を高めることができた」は平均値4.0点であり、概ね達成されたと考える。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

| DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当|①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は「社会福祉を学ぶための土台づくり」として福祉基礎科目に位置づけられている。4. にも記したように、内容は概ね妥当であったと考えられるが、さらに多 くの学生が目標を達成したと実感できるための工夫が必要である。次年度はワークのねらいや目的を学生が意識化できるような取組みを行っていきたい。 ②DP、行動目標からにても内容的妥当性

4. にも記したように、概ね妥当であったと考えられるが、ワークを行うなかで学生が職業倫理や行動規範と結びつけて考えられるような取り組みが必要である。

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡 授業の質評価では、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」が平均値3.7点、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」が平 単にお示しください。 均値3.8点と低かった。評価基準や課題はさらに明確に学生が理解できるように提示していく必要がある。「学習量の評価」、「情報利用」、「図書館利用」の各項目に また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しくださ ついては、コミュニケーション中心の演習であるため、いずれも低い値であった。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など

7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
7. 総括的計画と来年度に向けての課題 達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の目標達成状況より、目標は概ね達成されたと考えるが、本科目は福祉基礎科目に位置づけられているため、さらに多くの学生が目標を達成できたと実感できるような取り組みが必要である。学生に対して正のフィードバックをさらに強化していきたい。またコミュニケーションのワークの中で、学生が職業倫理や行動規範とのつながりを見出せるよう、ねらい等を明示するようにしていきたい。さらに評価基準や課題等の提示は学生に明確に伝わるようにしていきたい。

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	5	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DX = ICO	×	×	×	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること,重点をおいたことをご記入ください。
開講時の学生の学習準備性を示し,授業計画にどう活かしたかを,「受講動機
なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は
これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
<授業評価の指標>

受講動機は、「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」7.1%であった。本科目は、1年生前期開講科目である。そのため、科目名から講義内容をイメージで 」│きない学生もいると考えられるため、1回目の講義では、到達目標や内容等を口頭および文書で伝えた。

「学修準備性」、自由記述の意見など

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

学生の到達度自己評価は、10項目中5項目において平均値が4.0点以上であった。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は平均値4.4点であり、57%। の学生が「かなりそうだと思う」と回答していた。コミュニケーションスキルは、本科目で重視している内容のひとつである。また、再履修対象者もいなかったことから、 教育目標は達成されたと判断した。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、カリキュラムマップにおける専門教育科目である。全ての学生が標準レベ ル以上に達したことから内容は妥当であると考えらえる。

②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、ヒューマンサービス専門家に必要な態度(DP4)、技能表現(DP5)を習得する科目である。 学生の目標達成状況からDPにおける内容は妥当であると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡 単にお示し代さい。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しべさい。 く授業評価の指揮> 「授業の質の評価」「学習の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績および到達度自己評価の結果から、教育目標を達成できたと考えられる。授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として、「学習の仕方が分からない」 等の意見がみられた。来年度は、授業以外での学習の取り組みについても助言していきたい。

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	4	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
ix∃ic∪	×	×	×	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

対人援助の専門家として基礎的に必要とされるスキル(①自分を表現する力を形成する、②コミュニケーションを通じて関係を作る力を形成する、③人と協力して物 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」事を進める力を形成する)について、小グループに分かれ参加型・体験型の演習プログラムを中心とした授業を行った。上記の目的を達成するために各自の意見・ 感想を率直に述べられるような雰囲気づくり(例:「他者の意見を批判・批評しない事」を約束とするなど)に努めた。また各自の内省力を高めるために、グループ討議 だけでなく、毎回振り返りシートを作成し、記入させた。1年前期の必修科目であり、コミュニケーションや自己表現の力が求められる授業であるため、学生の学習準 備性にはばらつきがあると想定されたが、学生にとってなじみのあるゲームやエクササイズを準備したり、「自分なりの変化」に目を向けるような介入を行うことで、こ れに対応した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された				やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績の平均値は78.69(±	6.10)であった。今年度は学:	生間の成績のばらつきが大	きかったととらえている。多く	(の学生は標準もしくは理想	的レベルに達していたもの
┃* 根拠として,成績(トータルの成績,行動目標あるいはDP別)の平均値や分	の、一部ベースラインとして 価では全ての項目において					かしながら学生の自己評 D項目の平均値は4.4と高く
布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生	証価していたことから 一丁	71 61100-2	出土のウトにはつかがった	レキニこれて ゲーナナシロ	の数本口挿は 中和英法	ナスキナナのし転用してい

<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

|評価していたことから、一人ひとりのコミュニケーション能力の向上にはつながったと考えられる。従って本科目の教育目標は一定程度達成できたものと評価してい

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は福祉基礎科目として位置づけられており、学科のCPとも合致すると考えられる。学生は「必修科目である」ことを受講動機にしている者が100%であり、他 の項目を選択した者は「関心のある内容である」が15.4%であった。すなわち受講時点において科目そのものに対する興味関心が高い者が一定数存在したと考えら れる。また学習到達度の自己評価の平均値がいずれの項目においても高いため、自分の能力やスキルの向上を実感できたものと考えられ、内容的妥当性はあるも のと評価している。一方DP及び行動目標という視点から検討した場合、DP4.5ともに一定程度達成されていると評価できるため、方法的妥当性も有しているものと考 える。

6. 接来の進め方とその自上について 民業の変あ方とその自上については、会 展表に示しください。 また。学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 人と業界価の指標> 「投来評価の指標> 「投来であるとと、であったのでは、全ての項目の平均値が4.4~4.6と高く、演習という形態の授業であること、授業の実施にあたって重点を置いてきたことと合致した結果で あると考えている。 人と実際理価の指標> 「投来評価の指標> 「投来であるとと、投業の実施にあたって重点を置いてきたことと合致した結果で あると考えている。 人と終析的評価と本年度に向けての課題 運成状況の総括的評価と課題をお示しください。 学生の到達度評価、授業の質評価のすべてにおいて高い数値を示しているため、方法論的には大きな問題はないと考えられるが、ベースラインの時点でコミュニ ケーションや集団での課題解決の力に関して、例年と比べ個人差が大きかった印象がある。こうした領域に課題を抱える学生が今年度のみ多く存在したのか、ある いは今後増える可能性があるのかについて注視していく必要があると思われる。

学科	福祉学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
医学総論	2	前期	必修	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
oX∃ICO	0	×	0	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

医学・医療に関する基本的な知識は、福祉の仕事に必要なだけでなく、自分自身の健康管理にも重要です。主要な疾患にポイントを絞って、社会福祉士の国家試験 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」問題にも関連させて、できるだけ簡潔に解説を行いました。授業中に折に触れて、「命の大切さ」にも言及したつもりです。

また、授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」「資格取得に必要である」が大多数ですが、「関心のある内容である」も一割近くあります。積極的 に授業に臨んでくれたことを嬉しく思います。自由記述の意見で、「医学というと難しいのかなと思っていたけど、分かりやすかった」という記載もあり、講義をとうして 医学に興味をもって下さったことに感謝しています。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	期末試験の平均値は84.1」	点(最高98点、最低点60点)	であり、60点未満の再試対象	象者はいませんでした。秀:2	24名、優29名であり理想的し	·ベル(80点以上)に到達し

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

たひとは全体の72.6%でした。全員が標準レベル(60点以上)に到達したと判断しました。

福祉学との直接的な関連が乏しい領域にもかかわらず、期末試験の成績が良かっただけでなく、学生さんの授業態度も良好でした。

授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、いずれの観点においても「ままそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数です。皆さんが真面目に勉強した 表れだと思います。コミュニケーションや表現力に関する自己評価の達成度が低いのは、座学の系統講義であるのでやむおえないところもあると考えます。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP.CP.カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当|本科目は福祉学科の「専門教育科目」のうち「保健・医療関係科目」に属します。医学・医療に関する基本的な知識は福祉の仕事に必要です。社会福祉士の国家試 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

験にも医学・医療に関する問題が出題されます。

学生さんの受講態度、試験の結果、到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えま

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、大部分の項目で「ままそうだと思う」以上の評価を得ていますが、自分の意見をまとめる、発表するなどの学生参加に 関する項目は評価が低いです。系統講義ですのでやむおえないところもありますが、今後の課題であると思います。 自由記述では講義内容やスタイルに肯定的な意見がおおく、次年度も基本的に今年度と同様の形式を継続したいと思います。前年度には社会福祉士国家試験の 過去問題の提示の仕方に意見がありましたので、印刷の仕方などに工夫を行いました。
〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは三分の一程度でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひとは 少数でした。福祉学と直接に関係する分野ではないので、多量のレポートなどを課すのは良くないと考えますが、次年度は何らかの工夫をしたいです。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は福祉学科の学生さんにとっては馴染みが薄い内容であったと思いますが、皆さんが興味を持って積極的に取り組んでくれました。多くの学生さんが理想的レベルに、全員が標準的レベルに到達することができました。 今後の福祉科目の勉強や、将来に福祉現場で働く際に本科目で学んだことを活用して貰えれば嬉しいです。今年度も福祉学科の学生さんに講義が出来たことに感謝しています。

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏
1. 基本情報	

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
医療福祉論	2	前期	選択	いいえ	68
2 知 h - DD L の 片 学					

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
政コにし	0	0	0	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、里点をおいたことをこ記入くたさい。	,
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動	機
なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合に	t
これをどう具体化したかを併せてご記入ください。	
<培業証価の指揮>	

一般市民としての教養ではなく、利用者、当事者、患者への関わりを専門職として行うならば、興味を持ち、理解し、知識を蓄えることを願って具体的な社会事象を取 11 り交ぜ新聞や資料を配布するとともに命に係るDVDを視聴しながら指導したが、受講動機で、「関心のある内容である」は7.3%と低く、また、「資格取得に必要であ る」が43.6%、「単位数を確保する」が16.4%であり、約半数が当方の思いとは異なる結果であったことは残念である。

「学修準備性」、自由記述の意見など

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
		(7)までの平均値が3.0を超				ハとはいえない。しかし。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分

布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

「知識を確認したり、新たに得ることができた」「学びを深めたいと意欲をもつことができた」と答える者がいたことは喜ばしい。

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |到達度自己評価DP(1)~(7)までの平均値が3.2を超え一応の理解は出来るものの、「まあそう思う」が主な回答になっており、評価は高いとはいえないが目標は到 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

達できたものだと考える。

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	シラバスに沿い、教科書を中心に進めたものの、結果として1セクションごとに講義が終わらず、理解しづらかった点は反省する。しかあし、実践的な話に対しての興味を持ってくれる学生もおり、今後は話とともに区切れ良く講義を進めて行くことにする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の進路がいずれの領域になるにしても、医療は切り離せるものではなく、むしろ学び得ておくべきことだと思う。可能なj限り実践現場における問題や起こりうることなどに対し即応できる知識の習得をと考えるあまり、話が多くなってしまったことに対する反省とともに今後においても具体的に学ぶことがどのように反映するのかを指導して行きたい。数は少なくとも学習達成していることで評価されていると考える。

			11=1 5 2 2 4 12 00	fr dt 26 HD			
学科	福祉学科		リフレクションカード 20 フ	1/年度削期			
氏名	那須 省一		=				
1. 基本情報			_				
	科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数	
	英語 I	1	前期	必修	いいえ	86	
2. 観点·DP上の	の位置						
	該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)	
	M I I I	0	×	×	×	×	
3. 授業準備につ	ついて	•	•	<u>'</u>		•	
4. 学生の目標達	自由記述の意見など						
	達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか 、 観点別の達成状況は,該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		達成された	やや達成された				
*根拠として、成 布(標準偏差、S の授業評価アンい。 <授業評価の指 「学修準備性」	の根拠を簡単にお示し下さい。		∈施時の理解度を定期試験3 を超える学生が「まあまあそ			おいて目標はほぼ達成したと	:考えている。学生の到達 - -
5. DP, CP, カリ	Jキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価						
DP, CP, カリキ 性の評価を記入	キュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 してください。	医療・福祉分野での英語	唇の必要性は増すばかりであ	り、妥当だと思う。			

<授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」,自由記述の意見など

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単において、授業中に「自分の意見をまとめる」「発表する」などといった学生参加の点で不満を感じた学生が少なくなかったことが示された。教科書の内容以外でも学生にできるだけ多くの有益な知識を伝えようと欲張ったことが主因だ。今後の課題にしたい。また、授業のために「図書館やインターネットを利用した」と答えている学生が圧倒的に少数派だったことは残念に思う。今後の授業において自己の戒めとしたい。担当教員への意見で「英語は苦手でしたが、楽しい授と授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など 7. 総括的評価と来年度に向けての課題

7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	シラバスでは達成すべき目標として①基礎的な英単語を活用できる②基礎的な英文を読むことができる③基礎的な聞き取りができる④基礎的な英作文ができる―ことを挙げていた。①と②については概ね目標を達成したのではないかと考えている。③と④はまだこれからの課題だが、素地は育んだのではないかとも思っている。

学科	福祉学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅲ	2	前期	必修	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
_{EX} ∃ICO	0	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など

受講者73名(3回目の5月2日に確定)をA.Bの2クラスに分けられた授業を担当した。テキストは、内容として科学の分野の話題を取り上げた難易度が比較的高く、か 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」つかなりの長文を中心にしたものであるために、受講者の予習復習は、授業を円滑に進めるためにも、また授業の中で読解力を養うだけでなく、それぞれのエッセイ の内容をしっかり理解してもらいたいと考え、担当者として休暇中にも授業準備を徹底した。また前回、予習復習をいかに徹底させるかが、最大の課題となったの で、クラス全体として、いかに予習復習を励行させるかを念頭に、授業時には指名を中心に進めて予習を促し、一方で必ず復習してもらうために、必要に応じて、臨 時の小テストを実施することを計画して臨んだ。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

クラス全体の達成目標を素点で80点程度を目標に作成した学期末試験で、上下の差は大きくあったものの、クラス全体の素点の平均が70点前半であったこと。また 復習を促すために臨時に2回実施した小テストは、授業の内容そのままで、満点を取ってしかるべきものではあるが、16点以下の受講生が10名余いたものの、約半 数の受講生が満点だったこと。これらを総合して、まだまだ満足出来ないが、「やや達成された」と評価した。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |DP.CP.カリキュラムマップにおいて、本必修科目は、英語力の涵養という根本的目標から見ても、内容的妥当性を十分に備えた科目であると判断します。本科目の 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

|DPの位置づけも「知識理解」にあるので、科学英語の理解や科学の分野を取り上げたことは十分に適合していると考えます。

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡 単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しくださ

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

語学科目であり、講義ではなく、演習であるという点からも、担当者も受講する側にとっても、円滑に授業を進める最大の前提は予習であるし、一方で授業内容を確実に身につけてもらう必要のため復習も必要です。担当者が一方的に解説するだけでは、授業が予定通りに進んでも、英語の授業や学習にはなりません。「水飲み場に連れて行っても、水を飲むのは本人次第」という喩えが教育の場で昔からよく引用されます。シラバスには予習復習の目安として毎回60分(個人差はあっても平均として)と明記されています。クラス全体がこのような意識を常に忘れずに、授業に臨んでほしいと願っています。また受講生からの「担当者への意見」を見ていて、授業以前の問題も大きいと感じます。あえて、ここに一例だけを取り上げますが、「トイレに行ってもいいんじゃないですか」と2名から異口同音に書かれてありましたが、第3者がこれを読んだら、担当者が「トイレに行ってはいけない」などと人権侵害をしているとしか受け止められません。事実は「トイレに行くな」とは口が裂けても言っていません。授業中に、突然、何も言わずに教室を出て行ったから、出て行く理由を尋ねると同時に、出る時には一言、理由を言って出て行くように求めたわけです。もし、あなたが将来、教師になって、突然、教室から一人生徒が出て行ったら、放置しますか。このようなことがあって、これ以降は授業開始直後に「トイレの心配がある人は、出席確認をしている間に、次るべく済ませてください」と言うようになりましたが、これは明らかに授業以前の、マナーの問題で、ごく一部の人の、このようなことが、クラス全体の授業の雰囲気も壊すことになりかねないと案じています。誤解を招かないようにと思って、あえて言わずもがなのことを書きましたが、受講者全員と担当者が協力して初めて、授業は円滑に進みます。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題	·
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	クラス全体としては上記の評価の通り「やや達成された」と考えているが、今後も、語学の授業として、やはり予習復習が大きな鍵を握っていると考えている。授業以前の問題も残念ながら、あるように感じるが、何より予習復習の徹底が授業の実施や授業の成果につながると思うので、こういう面の指導が必要である。具体的には、予習復習を励行してもらう手段は、臨時の小テストや受講生それぞれの学習内容を定期的に点検することではないか、と考えている。これが今後の課題である。

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
家庭支援論	4	前期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
BA∃ICU	0	0	0	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

受講動機については「必修科目である」48.1%、「資格取得に必要である」55.6%、「関心のある内容である」22.2%、「単位数を確保する」14.8%、「友人が履修して いる」3.7%と、授業への関心にはばらつきがみられた。また、家族を主題として取り扱う科目は3年次までにないため、学習準備性においても個人差があると考えら れる。学生の学習意欲を維持・向上させながら、新たな知識や事象を理解する視点を得ることができるよう、多くの具体的事例や視聴覚教材を用いるなどの工夫を 行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の証価の担切を簡単にセテレスさい	対応 中白コ 砂(ボル・ハック	7.14 「红学女女」 校工 1 4.	.11 - 年1-1-22 フーレがベキャ	、「車角も珊般する坦よりも	ラナカ但てこしが云キれ 厂	5八が尚ばるし アハス市

【(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

到達度目己評価においては、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ほうとしている専 門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」において、3.8~3.9と比較的高い値であった。レポートの記述内容からも、一定程度の知識理解と事象 を理解する視点が得られたと考える。学習量の評価、情報利用において具体的な成果はあまり見られなかったが、他の科目や資格取得において膨大な課題を抱え ている中、授業中のディスカッションなどに積極的に参加し、発言や意見の共有を通して各学生の意欲関心が高まったと考えられることから、ある程度達成されたと 評価することにした。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 [①CP.カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は保育士資格取得に必要な科目であると同時に、福祉心理養護教諭コースの学生も履修できる科目として位置づけられており、知識習得と同時に、学生自 身が知的好奇心を働かせて学びを深める意欲をもつことにつながることが求められる科目であると考える。このような点において一定程度の成果が得られたことか ら、内容的には妥当であると考える。

②DP,行動目標からの内容的妥当性

それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性に問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の回数を重ねるごとに学生間の議論が深まり、様々な意見が出されるようになった。学生の意見表明をしやすくするために、授業の説明の中でポイントを明確 にすること、議論の焦点を絞ること、各自の意見を引き出すような工夫を加えることによってさらにディスカッションを深めることができるように改善していきたい。
2. 総括的評価と来年度に向けての課題	<u></u>
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「基本的な知識理解」と「知識に基づく思考判断」においてはある程度達成できたが、「多角的応用的に物事を捉える視点」において思考判断の面では課題が残っており、この点を来年度の課題としたい。

学科	福祉学科
氏名	樋口 善之

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健 I	2	前期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
nA∃ICU	0	0	0	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

授業の実施にあたっては、本科目が養護教諭コースを希望する学生が受講していることから、養護教諭として知っておくべき基本的内容を網羅することに努めた。特 に、保健学習については、保健管理を専門とする養護教諭にとっても、知っておくべき内容であり、また養護教諭自身が保健学習を担当することも期待されているこ とから、学習指導要領等の内容についての解説を充実させるようにした。

また、授業の準備性を高めるため、開始時に動機付けとして教員採用試験等の状況について説明した。

「学修準備性」については、受講動機を見ると、資格取得と回答したものが27名中23名であり、高い動機が伺えた、自由記述において、「インターネット等を利用して 自分なりにまとめた」という学生もみられた.

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	本科目は、養護教諭にな	るため基礎的な科目であり、	知識理解に重点を置いた。	学習到達度の自己評価とし	て、「知識を確認、修正した	り,新たに得ることができ
	た」の平均値は4.3(前年度4めたいと意欲を持つことが		「自分が学ぼうとしている」	専門分野の様々な課題を検		

の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

- 19. 前年度と比較して. 学生自身の到達度自己評価としてはとても良好な結果であったと考えられる。

一方,技能表現については,講義形式で座学が中心であったことから,達成されたとは言いがたい。学生の自己評価も,「コミュニケーション能力や表現力を高め ることができた」が3.5点〈前年度3.4〉と低くなっていた。今後の課題として検討したい。

全体を通して、最終的な成績の平均点は86点、再試験対象者は0名となった。授業の予習復習や指示課題については取り組む姿勢が見られたが、指示された課 題以外の学習に取り組むものの割合が、28名中5名と極端少ない。課題を指示するだけでなく、参考図書などを紹介して、自主的な学びを促していきたい。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

カリキュラムとして、本科目は養護教諭を希望する学生が受講する選択科目であり、専門教育科目として位置づけられている。また学校保健を専門的に学ぶ導入 的な位置づけであることから、講義の内容としては、基礎的な知識の修得と意欲の醸成に重点を置き、成績評価としても記述式の期末試験を課し、学校保健に関す る基礎的知識と共に、自己の考えを述べる設問内容としている。カリキュラムの位置づけとしての内容的妥当性に問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 く授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など

7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合的評価として、概ね良好であると考える。本講義を担当して4年目となるが、学校保健は広範な内容を取り扱うため、学校保健IIにつなげられるよう、基礎的 理解に重点をおいたが、昨年度までの授業評価の結果から、基礎的な知識の修得に加え、発言の機会を増やしたり、ブレインストーミングを取り入れたりするなど 前年度よりも双方向的な授業になるよう心がけたところ、「コミュニケーションカや表現力を高めることができた」に対して「全くそうでないと思う」「少しそうでないと う」者が前年度よりは減少した、引き続き、授業改善を進めていきたい。

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護臨床実習	3~4	後期·前期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DX I I I	0	0	0	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し,授業計画にどう活かしたかを,「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

①本科目は、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の要件を満たすための科目である。受講動機としては、「必須科目である」 |33.3%、「資格取得に必要な科目である」95.8%の学生が答えている。しかし、「関心のある科目である」12.5%であった。このことから目標ははっきりしているが、関心 が低いという結果であった。そのため、3年生の病院実習の経験を踏まえて、学校における養護教諭の実践に生かしていけるよう、グループワーク等を取り入れより 具体的な事例を用いて授業を行った。

②4年生の看護臨床実習では、病院実習の経験を踏まえ、学校現場で実際行う、保健指導の模擬授業、ロールプレイなどを取り入れ知識理解の定着を確認し授業 を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

最終的な平均値は84.6点(±7.3)であり、再試験対象者は0名であった。また、理想的レベル(80点以上)は、23名であった。

目標別にみると知識理解に関しては、88.5%、思考判断83.0%であったが、技能表現に関しては、73.6%であった。この結果から、授業で学んだ基本的なスキルを 対人援助職として活用し表現していくかを課題ととらえ、次年度に向けて検討していきたい。

学生による授業評価においては、「自分なりの目標を達成した」3.9(中央値4.0)であり、知識理解、思考判断についてはあまり差はなく、関心意欲については4.4(中 央値5.0)と高く、到達度自己評価において、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深め意欲を、持つことができた(平均値4.4 中央値5.0)」と答えい

このことから、授業で学んだ知識を専門職として表現できるような機会を授業の中で取り入れていくことが考えられる。そのためには具体的な事例を例示し、グルー プワークやロールプレイをさらに取り入れていくことを検討していきたい。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

| DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |①CP.カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容の妥当性 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、「保健・医療関係科目」である。また、「養護実習」の履修要件科目である。授業準備性の欄で示したように、受講動機から見ても多くの学生が「資格取 得に必要であるため」と95.8%が答えている。また、授業到達度目標も「自分なりの目標を到達した(平均値3.9中央値4.0)」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必 要となる技術を身につけることができた(平均値4.3中央値4.0)」と答えている。また、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。 ②DP、行動目標から見ての妥当性

成績評価から、技能表現に関する達成度が比較的低かった。一方で知識理解、思考判断に関する達成度は高かった。そのため、授業で学んだ知識理解、思考判 断を授業で表現できるようなに、授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であると考える。また、学生の授業の課題以外に取り組んだこととして、授業内容 を活かし、養護実習や教員採用試験の勉強に取り組んでいた。 ③まとめ

以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。

6. 長乗の進め方とその向上について 摂棄の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡 類生における授業評価については、「授業内容を養護実習や教員採用試験の勉強に生かした。」また、授業について「演習や先生の体験談から、イメージしながら また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しださい。 大学をからの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しださい。 〈授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など 7. 総括的評価と来年度に向けての課題 達成状況の総括的評価と課題をお示しください。 本科目は養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目である。知識理解、思考判断については概ね達成できたが、技能表現の面では課題が残った。この点は、 授業で学んだ知識を専門職として臨機応変に対応できるような技術を習得できるよう、授業内容の改善に努めていきてたい。

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎看護技術	3	前期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DA SICO	0	0	0	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など

①本科目は養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては、「資格取得のため に必要である」と87.9%の学生が答えている。しかし「関心がある内容である」が12.1%であり、目標ははっきりしているが、関心が低いという結果であった。そのため 看護の基礎技術をできるだけ理解しやすいように具体的な事例を用いて授業を行った。

②基礎看護技術については、授業で学んだ知識や技術を学校現場や病院実習で実践できるために、15コマ目に実技試験を行い、知識や技能の定着を確認した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった	達成された	やや達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

最終的な平均値は73.8点(±8.2)であり、再試験対象は0名であった。理想的レベルに(80点以上)に達したものは10名であった。目標別にみると、知識・理解に関 しては、66.9%、思考判断に関しては、59.0%、技能・表現に関しては、79.7%であった。思考判断では、で看護の基礎技術を応急処置等にどのようにいかすのか、ま た、対人援助職としてどのように支援するのかということを課題ととらえ、次年度に向けて検討していきたい。

授業評価の指標については、学習の到達度評価の全体評価では、「自分なりの目標を到達した」と回答した学生は平均値3.8(中央値4.0)であった。知識・理解の 観点、思考・判断の観点での自己評価にはあまり差がないことが示された。これは、授業で学んだことを基礎に様々な場面においてその知識を生かし臨機応変に対 応していかなければならないが、学生がそのことを自覚していないことが考えられる。次年度は、授業の初めに到達度目標について、ルーブリックを示し、学生がイ メージしやすいように検討していきたい。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

IDP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |①CPカリキュラムマップからの位置づけからみて内容的妥当性 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、「保健・医療関係科目」である。また養護教諭一種免許状を取得するための「養護実習」の履修要件科目である。受講動機から見ても多くの学生が、「資 格取得に必要であるため」と87.9%が答えている。また、授業評価の到達度目標も「自分なりの目標を到達した(平均値3.8中央値4.0)」、「自分が学ぼうとしている専 門分野で必要となる技術を身につけることができた(平均値4.1中央値4.0)」と答えている。また、学生も一定以上の成績を収めていることから、内容的には妥当と考 える。

②DP、行動面目標からみての妥当性

成績評価から「思考・判断」に関する達成度が低かった。一方で「技能・表現」に関する到達度は高かった。そのため、授業で学んだ知識理解を臨機応変に思考判 断できるように、時間を確保することを示している点では、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ

以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。	学生における授業評価については、「分かりやすく、将来のためになった」という意見がある一方で、「実技の時間がもう少しほしかった」という意見もあり、前向きに 技術をしっかりと身につけたいという意見もあった。実技実習の時間の確保については学生が十分技術の練習が確保できるように、授業時間の構造を改善していき たい。
< 侵業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	や 本科目は、養護教諭の一種免許状資格取得に必要な科目である。基礎的な知識理解、技能表現についてはあらかじめ達成できたが、思考判断の面では課題が残った。この点は、授業で学んだ知識や技能を思考判断し、実践できるような授業時間の構造を検討し確保できるようにしたい。 さらに、学校現場でに生かすことができるような基礎的な知識や技能が習得できるように、授業内容の改善に努めてきたい。

学科	福祉学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	33

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
BA∃ICU	0	0	0	0	×

3. 授業準備について

授業の実	施にあたり大	切にしている	ニと,重点を	おいたことを	こ記人くた	さい。
開講時の	学生の学習	準備性を示し,	授業計画に	こどう活かした	:かを,「受	講動機
なども参え	きにして記述!	してください。B	作年度に授	業の改善計画	画を立てた	場合は、
これをどう	具体化したた	^を併せてご訂	己入ください	•		
<授業評	価の指標>					

平和で幸せな地域の実現と、より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に **臨むよう学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出来** るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。

4. 学生の目標達成状況について

学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい	達成の評価の規拠は完期	は除の内突である しっかけ	と哲業者の求める論占に従	って聿かれている学生が名	/ 妈業者の音図た ト// ム.*	で内突を理解していること

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

達成の評価の根拠は定期試験の内容である。しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していること がわかる。(客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる)授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的	的妥当	「映
性の評価を記入してください。		- □

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」,自由記述の意見など

k像は100の言葉に勝る」と思われる。スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に 毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたい という要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと考えている。

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度の取り組みでもあったが学生が達成すべき目標を4点シラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	昨年同様に概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体現している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。

ſ	学科	福祉学科
	氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	33

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
改当にし	0	0	×	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

- ①教育方法論の歴史的な発展と理論的背景について重視した授業展開とした
- ②教育方法論の仕上げとして授業案を作成させていたが、本年度はその充実を図ってより多くの時間を割き、プレゼンをさせてみた。
- ③理論的な部分については現実の授業案づくりに直結する内容を盛り込んでいきたい。
- ④記述式の問題によるふりかえりをやめ、小論文形式に変更してふり返りの質を深めることとした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された〜達成されなかったのいすれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された
			干上まわっている。もちろん			
* 根拠として、 成績(トータルの成績、 行動目標あるいはDP別) の半均値や分 布(標準偏差、 S、 A、 B、 C、 Dの度数), 独自に設けた基準による達成度、 学生						「少しそうでないと思う」また場を意識した改善を計りた
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

▼DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 [①CP、カリキュラムマップ上の位置付けから見て真内容的妥当性 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は教職課程の科目であり、教員免許状取得を目的とする学生にとっては必修の科目となる。その意味ではどの学生も真摯に受講していたし、成績も良好で あることから、内容的には妥当である。

②DP、行動目標からの妥当性

成績評価から、学生はよく学んでおり、内容的に妥当であった。

③まとめ

以上から内容的妥当性には問題がない。

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では学生の平均値は3.6~3.9であり、すべて「まあまあそうだと思う」以上であって、なんとか満足しているようである。ただ、前述の到達度評価のことも あり、学生の関心を引き上げられる内容を検討していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教職課程の必修科目であるが故に将来の教職に夢を持てる内容のものにしたい。

ſ	学科	福祉学科
	氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職概論	能概論 2		選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
改当にし	0	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

①昨年の実績及び教職をめぐる現況から、シラバスを一部変更した。第6回の「教師の倫理」を削り、「教師の服務Ⅱ」として教師の勤務時間の問題を検証した。ま た、2016年度には子どもの貧困問題を採りあげてみたが、教職の携わる範囲を超えているため、今回は視聴覚教材を活用して「子どもの心をつかむ」技法について 学ばせた。

②前年度の講義の感触を踏まえて、講義内容をわかりやすく調整している。

③記述式の問題によるふりかえりをやめ、小論文形式に変更してふり返りの質を深めることとした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	学生の成績評価の平均値	直は80.37であり、全体平均値	直(80.58)とほぼ変わらない。	そしておおむね理想とするし	·ベル(80点以上)には達し <i>†</i>	と言える。学生の到達度

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

自己評価は3.5~3.9の間にあり、「自分なりの目標を達した」が3.5であった。これは「まあまあそうだと思う」の自己評価であり、まずまずの納得度だったと言えよう。 「コミュニケーションカや表現力を高めることができた」で「少しそうでないと思う」が1名いた。毎回課題レポートを書かせているので、少し工夫が必要かもしれない。 また、「職業選択の参考になった」にも1名「少しそうでないと思う」という学生がいたので、こちらは教職概論という科目の性格上、もう少し職業意識を高める改善が 必要と思う。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 (①CP、カリキュラムマップ上の位置付けから見て真内容的妥当性 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」,自由記述の意見など

本科目は教職課程の科目であり、教員免許状取得を目的とする学生にとっては必修の科目となる。その意味ではどの学生も真摯に受講していたし、成績も良好で あることから、内容的には妥当である。

②DP、行動目標からの妥当性

成績評価から、学生はよく学んでおり、内容的に妥当であった。

移譲から内容的妥当性には問題がない。

	授業の質評価に関しての平均値は3.5~3.7とまずまずのポイントだが、「まったくそうでない」「少しそうでない」というところに全領域について1~3名の記入者がいる。 殊に「説明は理解しやすいものであった」に3人「少しそうでないと思う」がいたことは、今後わかりやすい説明をしなくてはならないことを意味するのだろう。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教職科目で、必修なので、もう少しわかりやすい講義をすることで学生の意欲を喚起する必要があるだろう。

ſ	学科	福祉学科
	氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学	1	前期	選択	はい	68

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DX = ICO	0	0	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し,授業計画にどう活かしたかを,「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

受講動機をみると、「必修科目である」、「資格取得に必要である」と答えた学生は、それぞれ34%、14%であった。これは、本科目が保育士資格の取得を目指す学 生にとってのみ必修であることを反映した結果であろう。「関心のある内容である」と答えた学生は34%であり、学生の興味・関心をさらに引きつけられるように、健康 に関する身近な事例をできる限り多く挙げるようにした。

昨年度までと同様、毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われ る事柄については次回の授業で説明を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

最終的な成績の平均値は69.4(±12.8)点であり、再試対象者は13名であった。成績分布別にみると、90点以上が6%、89~80点が16%、79~70点が26%、69~60 点が43%であった。91%の学生が標準的レベルに達しており、27%の学生は理想的レベルに達していた。一方、標準レベルに達していなかった学生は6名であり、う ち4人は再試験を受験しなかった。

学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が3%、「わりにそうだ思う」が38%、「まあまあそうだと思う」が55% とほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.4)。

「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目2と3)についても、「かなりそうだと思う」が11~15%、「わりにそうだ思う」が35~43%、「まあまあそ うだと思う」が43~52%と、すべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.5~3.7)。

「思考・判断(DP2)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目4と5)についても、「かなりそうだと思う」が2~6%、「わりにそうだ思う」が27~29%、「まあまあそう だと思う」が56~61%と、ほとんどすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.2~3.3)。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

| DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当|総合人間科学の「心身と健康」領域に含まれる科目である。授業では主に定期的な運動がどのようにして生活習慣病を予防し、体力を向上させるか、さらには運動 の効果をより大きくするために、どのように運動を計画していくのかなどについて解説を行った。「知識・理解(DP1)」、「思考・判断(DP2)」および「全体を通して」に関 する学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生(98%)が肯定的な回答を行っていた。

学生の自由意見としては、「わかりやすかった」や「色々なことを知れて良かった」などがあり、健康を維持・増進させることについての興味や関心を高めることので きた学生が数人いた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考える。

単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しくださ い。 学生 なっ	生による授業の質評価は、平均値が2.8~3.6であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 生の自由意見として、「少し難しい内容でした」というものがあったが、学生には少し難しい内容であってもなんとか理解しようとする姿勢をもってもらいたい。 学習量の評価についてみると、今年度は1回30分程度以上の予習・復習をまったく行っていなかった学生が約21~26%であり、昨年度(30~33%)に比べ10%少ななっていた。また授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生は約61%であり、昨年度(約72%)より10%少なくなっていた。このことから、今年度は学生の学意欲や興味関心の幅を少しは広げることができたと考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね達成できたと考える。 今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生をさらに増やすために具体策を考えることである。

ſ	学科	福祉学科
	氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学実習 I	1	前期	選択	はい	75

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
改当に	0	×	×	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し,授業計画にどう活かしたかを,「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカ ウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。

チームスポーツでは、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとるこ とができるよう工夫した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点(課題)などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせる ことによってチームで活動することの意義を考えさせた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	最終的な成績の平均値は8	35.0(±6.7)点であった。成約	責分布別にみると、90点以上	が27%、89~80点が66%、	79~70点が7%であった。す	「べての学生が標準的レベ

*根拠として,成績(トータルの成績,行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

ルに達しており、約93%の学生は理想的レベルに達していた。

学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が60%、「わりにそうだ思う」が33%、「まあまあそうだと思う」が9% とほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値4.5)。

「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目2と3)についても、「かなりそうだと思う」が39~58%、「わりにそうだ思う」が28%、「まあまあそうだと 思う」が12~25%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.9~4.3)。

「態度(DP4)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目9)についても、「かなりそうだと思う」が39%、「わりにそうだ思う」が29%、「まあまあそうだと思う」が23% と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.9)。

「技能・表現(DP5)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目7と8)についても、「かなりそうだと思う」が43~45%、「わりにそうだ思う」が28~29%、「まあまあそ うだと思う」が19~22%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値4.1)。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

| DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当|本科目は総合人間科学の「心身と健康」領域に含まれる1年生対象の科目である。授業では体力向上を目指した運動(ストレッチング、筋力づくり運動およびスタミナ づくり運動)の実施方法を実技を交えて解説した。また、チームスポーツ(バスケットボール、バレーボール、フットサル)の技術練習およびゲームを行った。特にチー ムスポーツでは、授業の最後にゲーム中の良かった点や悪かった点など振り返り行わせ、次に向けてのチームの課題について話し合わせた。その結果、回を追う |毎にゲーム中の声掛けが良く行われるようになり、より積極的なプレーが観察されるようになったように思える。このようなことから、本科目は内容的に妥当であると 考える。

単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。	学生による授業の質評価は、平均値が3.4~4.0であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。
く授業評価の指標>	本科目では、各種トレーニングおよび球技スポーツを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、球技スポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン	また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中には授業以外で体操やストレッチ、ランニングをしていた者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かす学生の数を増やすことである。

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代と教育	2	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
改当にし	0	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

単位取得目的の者が100%、興味を持っている者が25%であった。

<授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など

開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」教養科目であるため特定の資格取得に向けた知識技術の習得を目的としていないので、いかに興味を持ってもらうかが授業準備段階のねらいであった。 そのために、導入部分に学生の体験を結びつける現代的な遊びの特徴を設置した。男の子の遊び、女の子の遊びを比較しながらその特徴をとらえ、共通点と相違 点から見える現代の遊びの様相を大まかに理解させる教材を工夫した。今期は「妖怪ウォッチ」のような大ヒットした遊びがないため、ポスト妖怪ウォッチについて新 しいテクノロジーとの関連から紹介し、学生の遊び体験とどのような点が変化してきたかに興味を持たせ、その後の過去に遡った遊び文化の歴史的展開への土台作 りを心がけた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	平均点は94.5点(昨年度は	(69.3点)であり、合格率は10	0%(昨年度は82.6%)であっ	た。基本的に知識理解が達	成目標となっているが、平均	月点が70点程度を期待して

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

いたが大幅に上回った。 合格者のうち、秀に相当する者は75%、優は25%であった。

他学科の結果としても突出して良好な結果となった。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |受講動機の側面からいえば、単位のために受講しているところから出発している。しかし、学科の位置づけからすると、社会/文化/歴史に触れることは不可欠であ 性の評価を記入してください。 る。また、教職課程在籍者も含まれるため、教職教養としての意味も大きい。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本年度の成績がここまで良好となることは予測できなかったが、授業態度はおおむね良好であった。 昨年度立てた改善方策は次の2点であった。(1)江戸時代の解説という高校の教科書的な補足ではなく、テーマと関連して理解すべき時代の特徴を代表するエピソードなどを通じて理解を深める教材を準備する。(2)画像、動画、実物教材など、見て聞いて触れる学習機会を増やす。 結果としてこれらの工夫が効果的であったと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	次年度も今年度と同様なレベルであれば、より応用的な側面や関連理論の紹介なども行いたい。ただし、他学科と同一授業でなければならないため、全体のバランスを見ながら授業を組み立てていきたい。

学科	福祉学科
氏名	東野・充成

1. 基本情報

科目名	科目名 配当学年		必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代社会と統計	1	前期	選択	はい	46

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当にし	0	×	0	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など

統計の基本的な考え方や、x二乗検定、相関係数など、基本的な統計の計算ができるという点に重きを置いた。レポート作成に二週間を用い、間の一週間を学生か らの質問の時間とすることで、受講者全員が、基本的な統計の計算ができるよう指導した。そのため、ほとんどの学生が、相関係数などの計算をできるようになっ た。この点は、レポートの作成に頑張ったという学生の声にも反映されている。今年度は、昨年度の改善計画を踏まえ、基本的な考え方と計算方法の習熟に重きを 置いたので、この点は達成できたと考える。一方、後半の多変量解析については、考え方や概念が複雑であり、むつかしかったという意見が多かったが、前半と同じ くレポート作成に時間をかけたので、ほとんどの学生が一定水準以上のレポートを提出することができた。ただし、多変量解析を扱うかどうかも含めて、むつかしい部 分については、もう一段の工夫の余地がある。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。				ただし、看護学科の約82点		

*根拠として,成績(トータルの成績,行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

だったので、学科間で目標達成に差が出てしまった。また、秀の学生の数も6名と、看護学科の15名に比べて有意に少なく、従前の目標が十分に達成されたとは言 ハ難い。その要因として、後半の多変量解析が難しかったという意見が多かったので、この部分が足かせとなっているようだ。ただし、前半の相関係数に関するレ ポートは、やり直しとなった学生が4名にとどまったので、基礎的な考え方や、エクセルを用いた計算方法については習得できたようだ。そのため、「やや達成できた」 とした。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 福祉を学ぶ学生、社会福祉士、保育士、養護教諭などにとっても、統計に関する基礎的な知識や理解は、必須の素養である。そのため、教養科目として本科目自体 は非常に重要なものと考える。ただし、福祉教育にとって統計の内容をどこまで掘り下げるのかという点については、再考の余地があると考えた。難しかったという意 見や後半ついていけなかったという意見にみられるように、むしろ、統計の基礎的な考え方や概念、基本的な計算などについてもっと深く掘り下げたほうがよかった と感じている。そのほうが、福祉教育として汎用性のある力を身につけられたと考える。また、科目の性格上、「興味をもてなかった」などの意見も散見されたので、福 祉学科に適した内容へと変更・精選する必要性を感じた。

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	多変量解析の考え方について難しかったっという意見が多かったので、この分野については少し縮小し、統計の基礎的な考え方や概念、計算についての授業の分量を増やしたい。また、今年度初めてグループによる調査と分析を導入したが、「わからない部分は友達と教えあいながら進めることができた」などといった肯定的な評価が多かったので、グループワークに使える時間をもう少し確保したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今年度初めて、グループワークによる社会調査の実習を導入した。自分たちで手足を動かして社会調査の基礎を学ぶという点では、教育方法として一定の成果を上げらえたと考えている。ただし、統計の基礎的な概念や計算を修得して上でのグループワークとなるので、いかんせん絶対的に時間が足りなかった。内容を精選して、調査の実習に避ける時間をもう少し増やせばよかったと考えている。

学科	福祉学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生学	3	前期	選択	はい	33

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
改当にひ	0	×	0	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

①公衆衛生学は必修科目であり、養護教諭資格取得に必須である。内容が幅広く、勉強意欲関心が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である17.9%、「資 格取得に必要である」89.3%で、「関心のある内容である」3.6%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。

②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。

③授業で使用する資料を配布し、できるだけわかりやすい内容とした。

④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増す必要がある。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
		は82.2(±8.4)点であり,不名				
* 担切して 成結(トーカルの成結 行動日標もそいけDD別)の変物値や分	②「自分なりの目標を達成	した」と答えた者は100%で、	印識理解、意欲関心につい	ては目標が達成されたと考え	えられる。	

ド根拠として, 成績(トータルの成績, 行動目標あるいはDP別)の半均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

- |③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的 確に判断する力を得ることができた」と答えた者も100%であった。 (4)「図
- 書館、インターネット利用」は非常に少なかったので、今後を課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 (①CP. カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は「専門教育科目、保健医療関係科目」であり、選択科目である。養教一種免許状に必須である。

②DP. 行動目標からみての内容的妥当性

成績評価から知識・理解、関心意欲については目標を達成した。国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

単にお示しください。	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.7で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.4であった。「ロ頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.8で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.6であった。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、課題解決型学習に力を入れて授業を進めたい。
< 授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の意見として、特に意見と要望はなかった。

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目にあたる本科目の位置づけから,知識理解の面で課題は達成できたが、関心意欲については課題を残した。今後、公衆衛生学の仕事現場での重乳性をしっかり説明し、学生の関心意欲のさらなる向上を目指していきたい。 授業過程を振り返ってみたとき,授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から毎回の授業のねらいを具体的に示して,予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。 講義スライド、配布物(授業の参考資料)に関しては、充実させ、来年度にむけて授業進度と内容説明について改善して行きたい。
-------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公的扶助論	3	前期	選択	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
BA∃ICU	0	0	0	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること,重点をおいたことをご記入く	たさい。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「	受講動機
なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立て	た場合は、
これをどう具体化したかを併せてご記入ください。	
<授業評価の指標>	

受講動機を見ると、「資格取得に必要である」76.4%、「必修科目である」50.9%であった。社会福祉士・精神保健福祉士指定科目であることから、国家試験の出題傾 |向を念頭に置くとともに、生活保護の被保護者に対して、ネットではびこっている偏見を決して鵜呑みにすることのないよう、生活保護制度の理念・原理・原則や制度 の正確な内容、および被保護世帯の実態を正確に伝えることに重点を置いた。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	前期試験の平均点は79.84	点(福祉心理養護教諭コー	ス82.03点、子ども家庭福祉	コース70.14点)、理想的レヘ	・ル(80点以上)に達した者に	は46名、再試対象者は5名
				こが、子ども家庭福祉コース(

の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

「標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生 の将業準価アンケートの結果など、できるだけ変類的なデータをお示してお 検討する力を得ることができた」の平均値は3.6、「専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」、「専門分野において、的確に判断する力を得るこ とができた」の平均値はともに3.5であった。

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

	①CP.カリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の	Ō
性の評価を記入してください。	学生が多く、学生の講義に対する動機付けは比較的高い。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。②DP.行動目標から見ると、	
	白口証価と成績に知問則係がれられることから、内家的には英孚でなると考える。とって、内家的英孚姓には問題ないと考える	

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標>	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」の平均値はともに3.7、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、の平均値は3.6であった。また、授業の課題以外に学習していない理由として「テスト前にしようと思った」、「他の教科に時間をあてた」という意見が見られた一方で、授業の課題以外に具体的に具体的に取り組んだ学習に「確認、〇メ」との回答があったが、これは定期試験の過去問を入手して確認していたものと思われる。他方、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均が3.2とやや低い。かつて質問を受け付けていたら、質問が殺到し、担当教員の体調や他の業務に支障が出たことがあったので、教員の業務の負担にならない程度で、学生の質問を促す方策を考えたい。なお、学生からの意見は特になかった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、意欲関心のいずれもある程度は達成できた と考えている。話すスピードと質問を促す方策については、検討する余地があるが、それを除けば、改善すべき点は特にないと考えている。

学科	福祉学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
行動科学	2	前期	選択	はい	51

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
改当に	0	×	0	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にして	いること,重点をは	らいたことをご記入	ください。
開講時の学生の学習準備性を表	示し、授業計画にる	どう活かしたかを、	「受講動機
なども参考にして記述してくださ	い。昨年度に授業	の改善計画を立つ	てた場合は
これをどう具体化したかを併せて	てご記入ください。		
ノゼ業団体の比価へ			

講義を受ける学生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対す 」る感想や質問を書いてもらうこと死している。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れ

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	多人数の講義だったがこれ	に対する評価は一定の成功	カを示していると思われる。	それは以下の3点においてて	である。①成績評価のほとん	どが平均以上の結果を出

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

している。②自由記述の欄に、「ためになり、わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向 のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 アンケートに記入された受講動機や自由記述を概観すると「心理学的なことに興味を持っている」「人間行動の不思議を知りたい」「人の心を理解するために必要」な 性の評価を記入してください。 ど心理的な知識やそれを応用したいとの意欲が伺われるので、その成果から勘案してこのカリキュラムマップと講義内容との整合性は妥当であると思われる。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しくださ い。	アンケートにあった講義中の「汚い言葉の使用を控えてほしい」についてはもっともである。授業の進め方と改善課題については大きな反省としたい。私語学生に対する言葉がきつすぎたと反省している。コミュニケーションの話を学生にすることが多いが、自分の授業が対話式のコミュニケーションを図っているかというと難しい。 どちらかというと一方向に偏りがちであった。これは質問を投げかけてもなかなかそれに応える学生がいないことにも起因しているが。それでもやはりツーウエイの授業を実現する努力をはかりたいと思う。上品な日武力的な言葉使いは今後の大きな改善課題である。努力を継続したい。
< 授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	

7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	講義の道は経験は多いけれど、今年度の達成状況の総括的評価は3段階AB、C評価のBの中ではなかろうか。授業はアートだと思う。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。おいしい料理を食べたときと同じ顔になると経験的に思っている。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
司法福祉論	4	前期	選択	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
BA∃ICU	0	0	0	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。	
開講時の学生の学習準備性を示し,授業計画にどう活かしたかを,「受講動機	Ŀ
なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は	,
これをどう具体化したかを併せてご記入ください。	
<授業評価の指標>	

受講動機を見ると、「資格取得に必要である」84.6%であった。4年生対象の科目であり、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験を受験する予定の学生が多いことか ら、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、主な支援の対象者である保護観察対象者も社会の一員であり、先入観や偏見を抱かせないことに重点を置いた。ま た、更生保護の現場に携わる職員を外部講師として招き、援助のイメージの具体化に努めた。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	前期試験の平均点は81.9点	点、理想的レベル(80点以上	.)に達した者は34名、再試対	対象者は1名であった。また、	到達度自己評価について、	「知識を確認、修正したり、
	新たに得ることができた」のできた」の平均値がともに3)さまざまな課題を検討する:	力を得ることができた」、「専	門分野について、学びを深め	かたいと意欲をもつことが

布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 | いさに」の十分他かともに3.4であった。 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |①CP.カリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「福祉専門科目」であり、社会福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生がほとんどで 性の評価を記入してください。 あり、学生の講義に対する動機付けは非常に高い。履修者の過半数が理想的レベルであることから、内容的には妥当であると考える。②DP、行動目標から見ると、

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考える。よって、内容的妥当性には問題ないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 「授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は3.6、「説明は理解しやすいものであった」、「期間内に行うべき学習の単元をた、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 「授業の質評価が構> 「授業の質の評価」「学階量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など 「投業の質の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など 「投業の質の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など 「被据的評価と来年度に向けての課題 「複批専門科目であり、かつ社会福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、意欲関心のいずれも達成できたと考えている。質問を促す方質にないた考えている。質問を促す方質については、検討する全地があるが、それを除けば、改善すべき自は特にないと考えている。質問を促す方質については、検討する全地があるが、それを除けば、改善すべき自は特にないと考えている。質問を促す方質については、検討する全地があるが、それを除けば、改善すべき自は特にないと考えている。質問を促す方質については、検討する全地があるが、それを除けば、改善すべき自は特にないと考えている。質問を促す方質については、検討する全地があるが、それを除けば、改善すべき自は特にないと考えている。質問を促す方質については、検討する全地があるが、それを除けば、改善すべき自は特にないと考えている。質問を促す方質については、検討する全地があるが、それを除けば、改善すべき自は特にないと考えている。質問を促す方質については、検討する全地があるが、それを除けば、改善すべき自は特にないと考えている。質問を促す方質については、検討する全地があるが、それを除けば、改善すべき自は特にないと考えている。質問を促す方質については、検討する全地があるが、それを除けば、改善すべき自は特にないと考えている。質問を促す方質については、検討する全地があるが、それを除けば、改善すべき自は特にないと考えている。質問を促す方質については、検討する全地があるが、それを除けば、改善すべき自は特にないと考えている。質問を促す方質については、検討する全地があるが、それを除けば、改善すべき自は特にないと考えている。質問を促す方質については、検討する全地があるが、それを除けば、改善すべき自は特にないと考えている。質問を促す方質については、検討する会社が表されている。

7. 松竹町計画と木牛及に削りての味趣	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、意欲関心のいずれも達成できたと考えている。質問を促す方 策については、検討する余地があるが、それを除けば、改善すべき点は特にないと考えている。

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫
. 45 144	

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子ども家庭福祉論	2	前期	必修	はい	74

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DA SICO	0	0	0	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること,重点をおいたことをご記入ください。	
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動材	卷_
なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は	t,
これをどう具体化したかを併せてご記入ください。	
<授業評価の指標>	

現代的課題としての子ども家庭の福祉について、身近な問題から解説を試みた。学生の生きてきた時代が数年前と異なることも鑑み、学生の反応を見ながら、授業| を構成した。今後も同様の方法で授業を構成したい。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		
	学生自身の自己評価では 己学習の内容について数					

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 大人等等に対し、大人のの内臓が、独自に動けた其準による表の度、学生します。 大人を実力をすることを念頭に置いて授業を展開したい。

布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。	受講動機が必修であることが大半の反応であるが、到達度自己評価結果を見ると、大方の学生は子ども家庭福祉の学習について取り組んでいたのでは考えてい る。
<授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」,自由記述の意見など	

レジメについては、パワーポイント資料をそのまま配布するように求める学生がいるが、そのまま配布すると授業参加度が極端に低下する過去の事象を含め現行のものとしていることは毎年学生に説明し、現在最善のものを提示している。
学生の到達度は、定期試験による成果物で評価しているが、授業中に関連する内容がある場合、すでに教授した内容を問いかけたり確認したりする機会を設けているが対象者数、教授内容の量の課題があり、一人一人にという時間の確保は難しい。基本的には学習分野に関する関心といったモチベーションにも依存するが、現代的課題としての受け止め学生が主体的に授業時間以外にも関心をもって学習を深めるように、動機付けしていきたい。

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会調査の基礎	3	前期	選択	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

***1-〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当に〇	0	0	×	0	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

社会福祉士国家試験の受験科目であるため多くの学生が参加していた。

ただし意欲の点からすると苦手な数学のイメージから、及び腰の学生も多く見られた。統計的技法の習得に十分な数学的技能を備えていない者も多く、「統計の意 味を理解する」ことに重点を置いた。授業のオリエンテーションにおいても、計算が苦手でも必ず社会調査を理解することができるという授業のコンセプトを説明し、 学生の動機付けに配慮した。

「学修準備性」、自由記述の意見など

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	どちらともいえない		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	平均点は69.9点(昨年度71	.3点)、合格率は99.9%(昨年	丰度90.6%)であった。平均点	を70点程度と予想しており	、おおよそその通りの結果で	あった。秀は40.3%、優は

【(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

28.3%であった。

本年度の特徴として、(1)平均点は例年通り(2)秀の割合が非常に多い(3)不可が少ない、といった特徴が見られた。

試験レベルは例年通りであり、全体として優秀な学生が多かったと考える。

ただし、知識理解に関する項目はある程度定着しているが、文章を元に考えさせる思考判断はまだ不十分であった。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |資格試験に対応した科目であり、一定の基礎的な学習の上に展開する3年次科目として、内容的に妥当性があると考える。 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

6. 授業の進め方とその向上について	
	授業方法としては(1)社会調査のイメージ作り(2)意義の理解(3)統計的手法の理解と活用といった順番で進めた。 (1)(2)については国家試験の過去問と照らしても学生も理解しやすいが、(3)から突然難易度が上がると感じる者も多かったようだ。テキストだけでなく、レジュメやスライド資料を活用しながら、できるだけ「なぜその統計手法が必要なのか」が理解しやすり授業を心がけた。授業中にはある程度理解できても、その定着が困難な場合もあり、繰り返し学習もこれまで以上に取り入れる必要があると感じている。
<授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今回は個別の質問に来室する学生も一定数いて、その中には授業をより深く理解しようとする者も含まれていた。その質問内容については授業で少しだけだが触れるようにして、4年次の自己学習とのつながりを持てるよう心がけた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学習集団全体としては一定の目標が達成できたと考える。ただし、下位層に関しては授業内容についてこられない者が一定数存在する。これに対しては補習的教 の準備などで対応してはいるが、まだ十分な効果を上げていない。より積極的にどうわからないのかに踏み込んだ授業改善が必要だと考える。 今回は学習内容が特定の出題形式と結びついた形で習得できているのかを確認するため、まとめプリントを準備した。これによりある程度「どのような形で理解する
	必要があるのか」をイメージできたのではないかと思う。
	上位層については、現状絞り込んだ範囲をきちんと理解させるという方法が効果を上げている。余裕のある学生はより広い範囲の学習を進める方法を検討したが 複数の授業範囲「基礎的、発展的」という形で整理すべきか、試験問題とどのように対応させるかなどより具体的に取り組んでいきたい。

ſ	学科	福祉学科
	氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会的養護内容	4	前期	選択	いいえ	26
O 知上 DDLの仕里					

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DX = ICO	0	0	0	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること,重点をおいたことをこ記人・	ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「	受講動機.
なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立て	た場合は、
これをどう具体化したかを併せてご記入ください。	
<培業証価の指揮>	

授業内容がかなり専門分化されたものであるが、保育士資格の必修科目ため、各々の学生の関心度には違いがみられる。大方の学生が関心をもって授業に参加 できるように授業内容を組み立てた。

「学修準備性」、自由記述の意見など

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	関連科目の履修を終え内容に重なる部分もあり、大方の学生は概ね教育目標を達成できたと考えられる。					

*根拠として,成績(トータルの成績,行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当		
性の評価を記入してください。		

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	演習の授業であるが、毎回学生自身が担当箇所を、テキスト以外の情報も参考にして事前学習し、プレゼンや討議を通してお互いの理解を深めることができるように授業を構成した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業の構成や進め方としては現在の方法を踏襲し、専門分化しているが故の学生の関心の持ち方について考慮していきたい。

学科	福祉学科
氏名	大神 英裕

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数	
障害者心理学	3	前期	選択	いいえ	29	

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
BA∃ICU	0	0	0	×	×

3. 授業準備について

技耒の夫他にのにり入りにしていること、 里点をあいにことをこ記入くにさし	١,
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講重	カ機.
なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合	it,
これをどう具体化したかを併せてご記入ください。	
/ 培業証価の指揮/	

「学修準備性」、自由記述の意見など

本授業では障害を持ちながら生きていく人の理解を深めることに重点を置いた。そのため、主に特別支援教育の対象となる様々な児童の障害・発達・心理特性など を概説すると共に、ICFの概要・各種法令などもふまえながら、それぞれの社会的理解の変遷をはじめ臨床的対応の在り方や今後の課題などについて授業を行っ た。また、オムニバス形式の授業も取り入れて実践的な理解を深めた。そのため、当事者(障害者本人)、当別支援教育コーディネーター、社会福祉士・臨床心理士 |の協力を得た。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。		なく論述式を併用した。成績		あったことからもDP1,DP3も「	やや達成された」と判断した	:。意欲関心(DP3)を「どち

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

|らともいえない」と評価したのは複数回実施した授業アンケートの内容に個人差が大きかったからである。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 本科目は福祉心理臨床の応用と展開の中に位置づけられており、資格取得に必要な科目である。学生の授業評価アンケートでは「とても分かりやすかったし、とて 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

もためになった。障害者について学びを深めることが出来た」「とても興味深い内容の授業でした。先生の話や外部の講師の方の話はとても勉強になりました」とあっ たことから内容的には妥当であったのではないかと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	試験の成績・授業態度・授業アンケートなどを見る限り当初の目標はほぼ達成していると思われる。しかし、障害者心理学は奥が深く、今回の授業のような基礎的な知識の理解から、臨床的および学術的な知識の習得と実践力の涵養をめざす事によって理解が深まっていく。こうした視点に立てば障害者心理学は通年の授業にするか、近接領域の授業科目間で授業内容の調整をするのも今後に残された課題になると思われる。

学科	福祉学科
氏名	三浦 元喜

1. 基本情報

科目名 配当		前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報の表現法	2	前期	選択	はい	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
政コにし	0	×	0	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、

授業の実施にあたっては、情報の表現や構成に関する知識に加え、技能をしっかり身につけてもらうことに重点をおいている。 ただし、単なるPowerpointやExcelの使い方で終わるのではなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうため

画像を含めたWebページの作成や、簡単なプログラミングをとりいれている。

「学修準備性」、自由記述の意見など

これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

知識定着に関しては、授業内で小テストを頻繁に実施したり、期末の確認テストを行ったりしている。また、講義での説明資料をすべてWeb上で閲覧できるようにして いる。

技能定着については、授業内での円滑な演習と、授業時間外の活動がシームレスに行いやすいように、Webブラウザ上での演習環境を提供している。 また、Powerpoint/Excel/Photoshop Elementsの課題演習と、Webページ作成/Processingプログラミング作品作成のグループ活動および発表会を実施した。

受講生の主要な受講動機は「資格取得に必要」である。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

平均点は88.8点で、標準偏差は16.4 であった。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

受講者の半数以上が90点以上であったことから、教育目標は達成されたといえる。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

単なるPowerpointやExcelの使い方にとどまらず、Webページの構成法やProcessingプログラミングなど、抽象度が高く、高度な内容を含んでいることから、到達度自 己評価は若干低めになっている。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

| DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |Processingプログラミング導入によって、コンピュータで扱える色の特性や、図形による表現を体験的に学習できるため、利点があると考えている。 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

アニメーションやインタラクティブな表現、プログラミングについて、今年はその必要性や意義を十分に伝えることができたと考えている。

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しくださ い。 学生の負荷を他講義と共有できるのが望ましいが、困難な場合は締め切りを柔軟にするなどして、ほかの講義や演習負担との重複を緩和するようにしたい。 講義資料については、Web上で配布しているが、重要なものは印刷して配布するようにしたい。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

図書館や、インターネットの利用を促進したり、授業の記録を工夫するように促していきたい。

或状況の総括的評価と課題をお示しください。	* 総括的評価 * 比較的抽象度・難易度の高い内容を扱っているため、学生に講義の方針や意図を十分に理解してもらうことが重要と感じている。
	課題 受講者のコンピュータスキルやリテラシーに、大きなばらつきがある。 タイピングスピードが遅い学生は、操作が遅れがちになるため、説明においついていけない。 とくにスキルやリテラシーのひくい学生に対して、上記で述べた学習の動機付けを改善することが課題である。

学科	福祉学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学	1	前期	選択	はい	54

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
oX∃ICO	0	×	0	×	×

3. 授業準備について

技耒の夫地にめにり入り	こしていること,里。	只をおいにことを	- 記入くにさい。
開講時の学生の学習準備	性を示し、授業計	画にどう活かした	かを、「受講動機
なども参考にして記述して	ください。昨年度に	:授業の改善計画	を立てた場合は、
これをどう具体化したかを	併せてご記入くだる	さい。	
/ 埓業証価の指揮へ			

「学修準備性」、自由記述の意見など

現代社会はストレス社会であると感じる。心理学の分野に期待が高まっている。本講義では基本となる心理学一般の基礎知識や教養的知見の修得を目指しなが |ら、専門性のある生涯発達心理学の視点から授業を組み立てている。それは今を生きる学生に最も必要な「生き方の模索」に関わる問題だからである。昨年度の大 きな課題は講義中の集中力をいかに途切れないようにキープさせるかという点であった。このため講義途中で「映像」を多く取り入れた。自由記述などを読むと概ね 成功したと理解できる。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

|昨年度に引き続き、全体を通して達成されたという根拠は「定期試験の結果」である。優れた及び良しの合格点を取った学生はほぼ100パーセントに達した。定期試 験は記述式がその中心であるが、記載の内容も的を得たものでありしっかり書かれており理解の進んだものであった。また学生の授業評価アンケートの記述にも 「ためになった」「分かりやすかった」「面白かった」などが多数あり知識理解と意欲関心について一定の水準を保ったことが伺えると思った。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当|昨年度と同様に、毎回の授業について、ミニ感想や質問を自主的に書いて提出するように求めている。この効果は大きく好評のようである。自由記述を見ると、これ に関する「質問の回答の時間が一番良かった」「心理学だけでなく先生の人生の話が面白かった 1等の記述もあり、本科目の目標である「ストレスの多い現代社会を 生き抜く健康な心構えを形成する」というねらいが達成されたと評価できる。

6. 侵業の進め方とその向上について 接業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡 単にお示したださい。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 く授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学習の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など 7. 総括的評価と来年度に向けての課題 達成状況の総括的評価と課題をお示しください。 講義シラバスで年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶え、睡眠モードに切り替わる学生が幾人か存在する。注意の仕方に工夫をくわえたい。睡眠学習者のを達成するのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、計議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。がんばりたいと思う。

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学概論 I	1	前期	選択	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
ix∃ic∪	0	×	×	×	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

受講動機は「必修科目である」71.3%、「資格に必要である」27.5%、「関心のある内容である」11.3%、「単位数を確保する」21.3%、「友人が履修している」5.5%、教 員に勧められた2.5%であった。1年次科目であるため、まずは資格取得に勧められている科目として受講してみようかという学生が中心であると考えている。また、 |本科目は学生が初めて心理学の基礎的理論や研究に触れる科目であることから、できるだけ具体的な例を挙げて、専門性のある概念や言葉に親しみ、関心を深め るようにしている。

授業毎に提出させている小レポートに挙げられた質問や疑問は、次回授業にてフィードバックを行い、学生の関心に応じるよう工夫した。

毎回、授業前に前回の復習として、授業の流れを振り返り、繰り返し説明することで、知識の定着を図った。

|学生アンケートからは「(スライドの)色分けがされていて、わかりやすかった」「分からない用語が出てきたときに、身近なものに例えをおいたりするのがわかりやす かった」という評価を得た。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	最終的な成績の平均値は	72.6点であった。全体89名に	対し、70点以上の標準~理	想的レベルの者は46名であ	うったことから、およそ半数 <i>0</i>	D者は標準~理想的レベル
		られる。しかし、再試対象者				
右(煙準停羊 S A B C Dの度数) 独白に設けた其準による達成度 学生	一方で、学生の自己評価に	おいては「知識を確認、修」			ないと思っ、少しそうでない。	と思っは0名であり、平均点

の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

|は3.7点と高く、自己評価を試験結果に結びつけることが難しい学生がいることが考えられる。 授業後のハレポートでは、殆どの学生が講義内容を踏まえて感想や意見を述べており、積極的に授業参加する姿勢(態度)がみられた。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 本科目は「選択科目」であるが、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験受験に必須の内容である。また、それらの資格に加え、養護教諭、保育士など対人援助 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

職としての専門性を養うには、人のこころの理解は基礎である。したがって、1年次の心理学概論の学習は重要でかつ妥当であると考える。

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡 単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しくださ

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など

1年前期開講ということで、初めにゆっくり進めたところ、後半のペースアップに「困りました」とのコメントがあった。ペース配分に配慮しつつ、教授内容は充実させて **いく。授業はプリントを配布したが、「プリントで充分だと思った」「プリントの量が多い」「プリントを見直した」など、学習に有効活用されているようである。引き続き、テ** キストを補うべくプリントを用いて授業を行っていく。

学生アンケートによると、学習準備を30分程度1回以上行った者が56名、うち6回行った者が2名だった。また、復習を30分程度1回以上行った者が60名、うち6回行っ た者が4名だった。授業内容は新しい概念や言葉など知識獲得を目的とするものであったため、まずは授業内容を理解し獲得していくことに専念した学生が多かった! と言える。

「授業の課題以外には、何をしていいかわからなかった」という感想の一方で「授業で充分だと感じた」「授業の予習・復習をした」「要点をまとめた」と述べている者が 多く、まずは授業内容を自分のものとして吸収することを念頭に学習をしていることが伺える。毎回、提出すべき課題等を課しているわけではないが、学生が自主的 に予習・復習に取り組んでいたことが伺える。

「本を読んだ」「図書館に調べに行った」という学生がいたが、今後このような姿勢の学生が増えていくことが期待される。

試験前には、個別に質問や確認に来るようにと促していたが、成績の振るわない学生のなかには、学習内容における疑問や自らの学習上の課題を解決できていな い学生が含まれているようであったことから、そのような学生に対し、積極的な学びを引き続き促していく必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の目的とする基礎的知識の形成について、概ね達成できた。 一部学生に、自主的な予習・復習を行い、日々の授業内容について行くことが難しい学生がいたことから、今後そのような学生に対しても十分な学びを促していき い。

学科	福祉学科
氏名	河岸 重則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
oX∃ICO	0	×	0	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること,重点をおいたことをこ記人・	ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「	受講動機.
なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立て	た場合は、
これをどう具体化したかを併せてご記入ください。	
< / d> く将業証価の指揮 >	

①受講生は高校時代に「化学」を履修した人が少なく、また「化学」に苦手意識を持っている人が多い。加えて、ほとんどの受講生が「単位確保」を目的としての履修 **しのため、授業内容を易しくて、日常意識していないが注意してみると「化学」が生活の中にたくさん存在していることを理解し関心をもってもらうことを目的とした。** ②上記の目的のため講義内容をその時間内に理解することに重点をおいているので特に「予習・復習」を求めてはいない。講義の開始には前回の内容の「キーワー ド」の復習から行なった。

③数回、確認テストを行い、理解度のチェックを行なった。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	(1)試験を資料持込で行い、	その資料を理解しているな	ら点数のとれる形式で行なっ	った。平均点は81.4点であっ	t- ,	

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

- ②身の廻りの化学から受講生おのおのが自分でレポートの課題を決定して提出させたが、全員きちんと仕上げていた。

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 本科目は「一般教養科目」であり、また選択科目、学科横断的科目である。試験の点数、レポート内容から、内容的に妥当であると考える。 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	全体に向けて質問しても答えてくれないので、指名して質問するようにした。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題 達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	- 般教養としての化学の内容として特に問題はないと考える。化学は範囲が広いので、学生に意見を聞いて学生がさらに関心を持つような講義項目を加えるのも課題かもしれない。

学科	福祉学科
氏名	野原 三郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生徒指導論	3	前期	選択	はい	33

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DX = ICO	0	0	×	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること,重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し,授業計画にどう活かしたかを,「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

①「学生の授業評価アンケート」より、受講動機として「必須教科である」が8名26%、「資格取得に必要である」28名87.5%となっており、教員免許取得に向けた意識が |強いことが分かる。近年、学校・生徒をめぐる事件事故の発生に伴い、学校・教師の危機管理意識やコンプライアンス意識の不足が指摘されていることから、授業の 導入にあたっては、現在進行している教育問題や児童生徒に関する事件事故についての新聞記事を用い、学校現場や社会に直結した授業となるよう工夫した。② 教育課題の解決については、学生に関係法規や中教審答申等を提示しながら、問題解決型の講義を行った。さらに、講義の後に演習としてSST、構成的グループエ ンカウンター、犯罪やいじめ防止のロールプレイングを行うなど実践的な内容となるよう工夫した。④受講生は全員3年生であり、実社会への接続期となり、学校教育 に関する意識や関心持たせるため、現代の教育課題についての論作文を提出させ、添削を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

・達成度自己評価について(回答総数32名))

- ① 到達度自己評価の「自分なりの目標を達した」の項目では、「かなり」が回答総数32名中8名、「わりに」15名となっており、「まあまあ」が9名となっており、否定的 回答はなかった。
- ② 学生の〈知識〉〈理解〉に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「17名、11、名4名」「16名、10名、6名」と なっており「かなり」と回答した学生が最も多く、否定的回答はなかった。
- ③ 学生の思考判断に関する<検討する力><判断する力>それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「17名.11名.4名」「12名.16名.4名」であり否定 的回答はなかった。
- ④ 同じく意欲関心に関する<意欲>では肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「13名、16名、3名」の順となっており、否定的回答はなかった。
- ⑤ 技能表現に関する<技術>とでは肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順「12名.12名.6名」の順となっており、否定的回答は「少しそうでない」が1名と なっている。
- ⑥ 〈コミュニケーション、表現力〉の習得では、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「10名.11名.10名」となっており、否定的回答は「全くそうでない」が1 名、となっている。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |①「学生の授業評価アンケート」より、受講動機として「必須教科である」が8名26%、「資格取得に必要である」28名87.5%となっており、教員免許取得に向けた意識が 強いことが分かる。近年学校・生徒をめぐる事件事故の発生に伴い、学校・教師の危機管理意識やコンプライアンス意識の不足が指摘されていることから、授業の 導入にあたっては、現在進行している教育問題や児童生徒に関する事件事故についての新聞記事を用い、学校現場や社会に直結した授業となるよう工夫した。② 教育課題の解決については、学生に関係法規や中教審答申等を提示しながら、PBL・アクティブラーニングの手法を用い講義を行った。さらに、講義の後に演習とし てSST、構成的グループエンカウンター、犯罪やいじめ防止のロールプレイングを行うなど実践的な内容となるよう工夫した。④受講生は全員3年生であり、実社会へ の接続期となり、学校教育に関する意識や関心持たせるため、現代の教育課題についての論作文を提出させ、添削を行った。

単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン	6. 授業の進め方とその方向性について (① 学生自身が課題解決に向けて主体的に学習する姿勢を持つようブレインストーミングやKJ法を用いて意見表明やコミュニケーション能力を育む機会を設けた。 (②「授業の質の評 価」については、全ての項目で〈評価基準〉の平均値が「4」以上となっており、概ね目的は達成された。その要因として、質問(4)「学生が参加する機会」の項目で「かなりそうだと思う」と回答した学生が19名と60%となっており、このことからも学生参加型の自己探求型の授業を行った為である考えられる。また、受講生の多くが目的意識を持って授業に参加しており、楽しく授業を進めることができた (③「学習量の評価」については「(1)授業の準備」については1回と回答した者が10名、2回と回答した者が10名となっている。 (④「復習」についてもほぼ同数である。家庭学習として、論作文の課題を計4回課し添削を行ったが、回を追うごとに論作文の質に向上が見られた。

『成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総括的評価と来年度に向けての課題
三次人がひかは日に十三日本屋でのからへによい。	
	評価しては概ね満足できるものがあったが、まだまだ改善すべき点も多い。
	① PBLやアクティブラーニングをさらに推進する。
	② 知識の定着を図り家庭学習へ繋いで行くために、さらに工夫が必要である。
	③ 本年度取り組んだブレーンストーミングやKJ法、開発的生徒指導の例としての構成的グループエンカウンターなど、実践的な活動をさらに充実させることによ ミュニケーション能力や。実践力を高める。

学科	福祉学科
氏名	平田 健太郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神疾患とその治療	3	前期	選択	はい	41

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
改当にし	0	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など

①受講生を見ると、受講動機としては資格取得に必要である83%、必須科目である42%、関心のある内容である8%、単位数を確保する3%、教員に勧められた3% と大多数の学生の受講動機はかなり高く、積極的に授業に臨んでいるものと考えて講義を進めた。その際、国家試験問題を参考にして最低限のレベルは維持する ことに努めた。また、意欲を高めるために、随時、過去の国家試験問題を提示した。

②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」として、毎回授業終了時に、「講義の感想、質問、意見など自由に書いてください」と記入した「自己学習記録」を受講 者から提出してもらい、次回授業の冒頭で質問には出来るだけ答えたり、知識の足りないところを補ったり、修正したりした。このことは、知識を深め、授業への参加 意欲をさらに高めることにつながったと考える

③代表的な精神疾患に関しては、講義の初めに模擬患者のイメージVTRや、疾患を紹介する画像DVD等を5~10分間程度提示し、そのうえで講義を行うように努 めた。

④毎回の講義の最後には、「本日の講義の要点、キーワード」として4~5項目を板書し、学習の一助とした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

- 【① 成績をみると、平均点 74.3 点であり、目的はほぼ達成されたと思われる。
- ②上記の「自己学習記録」における学生の記載内容からも毎回の講義の理解度が大略確認された。
- ③学生の「学習到達度の自己評価」では肯定的回答が37、否定的回答は0であったことからも裏付けられた。
- ④「学習準備性」は、予習に対しては否定的回答31に対して肯定的回答は7であった。
- ⑤履修に際して、あらかじめ授業計画を立てたかどうかとの問いでは、否定的回答33、肯定的回答5と87%が否定的であった。また、肯定的回答者5名もシラバスを 活用し立案したものは0であった。
- ⑥図書館の利用に関して、図書・雑誌の活用は肯定的回答3、否定的回答35、データベースの活用は肯定的回答1、否定的回答37と大半の学生が否定的回答をし た。わずかにホームページの検索においては肯定的回答9、否定的回答29、となっていた。このように殆どの学生が極めて消極的姿勢であることが明らかになった。 ⑦これらの回答結果を検討した結果、今年度も単に学生の要求に応えて資料提供することは適度に抑えて、学生自身が積極的に理解を求めて努力するような方向 での教育、すなわち課題を提示することが必要である(欠落している)ことが明らかとなった。この点は次年度以降の課題とする必要がある。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

| DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |①CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、「専門科目」であるが「専門基礎科目」と「専門応用科目」の両者にまたがる科目である。この役目を果たすべく講義では工夫をしたが、学生も一定の成 績を収めているところから内容的には妥当であると考える。

②DP. 行動目標からみた内容的妥当性

「受講動機」等を検討した結果、内容的にも妥当であると考える。

③まとめ

以上から、なお内容的妥当性には問題はないと思われる。

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	あった。今後は、必須課題として提示し確認するような作業が必要であると考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①1年半後の国家試験の成績結果でも部分的には評価されるが、ほぼ達成されたと考える。
	②あらためて、課題としては、昨年と同様、以下の項目が挙げられる。i)如何にすれば、学生たちがシラバスを読んで授業に臨み、授業に集中できるようになる
	か、有効な方法があるだろうか。ii)近年の流れを考慮し過ぎて単に学生の要望に応え過ぎると、自助努力する気持ちを殺ぐことになりかねないことを大いに危惧
	7
	⊙ ∘

学科	福祉学科
氏名	嶋村 美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神障害者の生活支援システム	2	前期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該当にし	0	×	0	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

①受講動機は、「資格取得に必要」が18/19人となっている。精神保健福祉士の国家試験受験資格の指定科目であるためである。学生は資格取得に必要な科目 であることを意識しての受講であることがわかる。 ②資格取得のための指定科目という意識づけをオリエンテーションでの

目的として、講義の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。学習量の評価について、授業の課題以外に学習に取り組んだかの問いについて、していな いと答えた学生が多くいたことを受けて、興味関心を広げる話題提供を心がけたが、さらに自発的学習が積極的に行われるような導入をする必要があると思う。 ③授業の実施に当たっては、できるだけ具体

的な内容を含めて、説明を行った。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
선생님 소프스라 (조율모듈 * 7.) 나 마마 이 교육 (사용)	点は76点と、理解度に大き		は今後、個別の理解度を高	めるような仕組みが必要で	産度は達成されたと考えてい あると考える。意欲関心に関	

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当【DP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性について】 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は「専門教育科目」の中の精神保健福祉関係科目であり、1年後期から始まる精神保健福祉士コースの科目の制度系科目の積み上げに位置する。精 神保健福祉士国家試験受験科目として、受講する学生がほとんどであるため、資格を取得した後の専門職になった時に必要な知識や理解、興味関心を広げ、精神 保健福祉士としての視点や役割が理解できるように授業を進めて、2年後期の援助技術系の科目への橋渡しとなっている。学生も一定の成績を収めていることか ら、内容的には妥当であると考える。

単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。	学生による授業評価においては、授業の課題以外への学習についてしていない学生が15人おり、理由として他の科目の勉強をしていた、時間がなかった。忙しかった、といった記述があった。文献を紹介したり課題への取り組みを促したりすることで、具体的に行動できる学生が増えていくのではないかと考えるので、文献紹介や具体的な勉強方法について、学生とやりとりをしながら双方向の情報提供を組み込んで行こうと思う。 授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、の項目が平均点3.5で、他の項目に比較して低かった。講義系科目であるため、話し合ったりする機会を多く作れないのが現状ではあるが、次回からはさらに事例を考えたり、現状の課題について扱うコマの中で、話し合う機会を作っていくようにしたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

7. 総括的評価と釆年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士を目指す学生がほとんどの受講生をしめる本科目において、学生の勉強への動機づけはある程度学生自身でてきていると思われる。さらに具体的事例を提示し、学生が考える機会を増やし、授業外での学習を促すための課題を設定したり、それぞれの学生に合った勉強方法の具体的提示を行うことで、興味関心を広げることでモチベーションを高めより継続して勉強することへの動機づけができるのではないかと思う。次回から、この点を取り入れて授業を組み立てていきたいと考えている。

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	3	前期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DA SICO	0	0	0	×	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であることから、他の受験資格科目との関連性を考慮して講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」「受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、1,2年次での開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性 を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、定期試験の件、社会福祉士の実習に伴う補講の件、理解を深めるための専門職 能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、関連キーワードの確認テストを行ったり、前期のみ の講義で、30コマあることから学修状況確認のために、16回目あたりに中間的な小テストを行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布 し、理解度を高めた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		達成された
	成績評価については、全員					
* 担拠して、武徳(L. カルの武徳 行動日博もそいけDDBL)の立物体や八	えた上で、最終的に判断し	た。また、80点以上が約3割	を占め、理想的レベルに達り	している。リアクションペーハ	『一からは、国家資格の受験	:資格を取得するためだけ

・根拠として,成績(トータルの成績,行動目標あるいはDP別)の半均値や分. 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

ではなく、幅広く障害福祉、精神保健福祉、貧困等々の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP.CP.カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、精神保健福祉士の国家資格を取得するための専門科目でもあり、講義に対してのモチ ベーションは非常に高いものが感じられた。また、精神保健福祉士の受検資格を取得しない学生の受講もあったが、障害福祉や医療福祉領域に興味があるというこ とで、意欲を感じられた。学生も成績評価から、一定の到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性につ いては、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

	今年度も昨年度同様に授業の質の評価の「コミュニケーションカや表現力を高めることができることができる」の平均点が3.4と低かった。どうしても座学であるがゆえ、なかなか困難かとは思うが、昨年度の反省から可能な限り事例等の導入をし、アクティブな活動を入れ込む努力を行ったが、工夫が足りなかったのかもしれない。次年度に向けて更なる工夫をすることを課題としたい。学術データベースの利用に関しても、利用の仕方からのインフォーメーションを行ったにもかかわらず、昨年同様殆どなされてなく、更なる工夫をしていきたい。
<授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	

7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するための必須科目であり、精神保健福祉士養成レーンの学生の受講が多かった。2年次での精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて講義を行ったが、2年次に精神保健福祉に関する他の講義等を受講していない学生(進路変更者等や、障害福祉領域、医療福祉領域に関心を持つ者)も受講していることから、前半部分は2年次の復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後期にこの講義の II が設定されているので、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めたと感じられる。次年度も引き続き、予習復習に関して具体的な指示を出すようにし、理解を深めていく。

学科	福祉学科
氏名	柳澤 伸一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
西洋の歴史と文化	1	前期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
改当にし	0	×	×	×	0

3. 授業準備について

【授業の実施にあたり大切にしていること、 重点をおいたことをご記人ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機
なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、
これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
<授業評価の指標>
「学修準備性」 自由記述の意見など

|受講動機では、「単位数を確保する」を挙げた者が81.3%、「関心のある内容である」を挙げた者が31.3%で、前年度とほど同様であった。必ずしもすべての者に 積極的な受講姿勢を期待できる状況とは言えなかったが、高校世界史の履修を前提に、ヨーロッパ世界の過去と現在とのつながりを絶えず具体的に指摘しながら、 授業に関心が持てるようにした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいすれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。	生性の技术を加、負向支付付けの項目で、平均値が低かつた。					
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

	本科目は、総合人間科学の科目の一つで、DP1.DP4に係わる位置付けがなされている。到達度自己評価と授業の質評価に関する上記の結果から、DP1(知的理解) に関しては内容的妥当性があったと思われるが、DP4(態度)に関しては、検討の余地がある。
<授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」,自由記述の意見など	

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 と現在との関連が捉えられるように心がけた。講義を踏まえて、ヨーロッパ世界とピザンツ世界との構造比較に関して、またキーワードの説明に関してレポートを課したことは、受講名の授業理解を深める上で有益であったと思われる。予習・復習に関しては、受講生任せにしたきらいがあり、30分以上の予習・復習をした回数がい と授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など 7. 総括的評価と来年度に向けての課題 達成状況の総括的評価と課題を表示しください。 高校主での世界中の層條を前提に、講義を消してヨーロッパ中について新しい知見を与えることはできたが、アクティブラーニングを誰もが取り組める形で促すことで

7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	高校までの世界史の履修を前提に、講義を通してヨーロッパ史について新しい知見を与えることはできたが、アクティブラーニングを誰もが取り組める形で促すことでは、工夫の余地がある。

			リフレクションカード 2	01/年度前期					
学科	福祉学科]						
氏名	岡田 和敏								
1. 基本情報							=		
	科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数			
	相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修		14			
観点・DP上の位	置						_		
	=+ 1/4 /= 0	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)			
	該当に〇	0	0	×	0	×	1		
3. 授業準備について	τ	<u> </u>	<u> </u>	<u>'</u>	<u> </u>	•	_		
これをどう具体化した <授業評価の指標> 「学修準備性」,自由									
<授業評価の指標> 学修準備性」,自由 1. 学生の目標達成	記述の意見など								
< 授業評価の指標> 学修準備性」,自由 1. 学生の目標達成 (1)教育目標は達成	記述の意見など	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)		
<授業評価の指標> 学修準備性」,自由 1. 学生の目標達成; (1)教育目標は達成 を選んでください。観	記述の意見など 	達成された	達成された	達成された		達成された			
〈授業評価の指標〉学修準備性」、自由 4. 学生の目標達達成 1. 学生育目標は達達成 2. 1. 1)教でください。観 を選んでください。観 * 根拠として、S、A、 の、 (2. 2. 2. 2. 2. 3. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4.	状況について はされましたか。達成された~達成されなかったのいずれか。 点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。 「拠を簡単にお示し下さい。 トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生 トの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ	達成された	達成された目ではないため、演習時間内			達成された			

<授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」,自由記述の意見など

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しくださ	自由記述に。「課題をしました」「することがなかった」とあったことは反省点となる。今後は主体的な取り組みをさせたい。
ι ^ν .	
< 授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	
1. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	複数の教員が担当する為、同様のことを行ってはいても同じ評価は出ない。今後指導方法についての整合性を図りたい。

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DX I CO	0	0	×	0	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

本科目は社会福祉士指定科目及び必修科目となっている。授業評価アンケートにおける学生の受講動機を見てみると、「必修科目である」(100%)、「資格取得に 必要である」(21.4%)、「関心のある内容である」(7.1%)の順になっており、授業への関心・動機にややばらつきが見られる。

本科目は対人援助職に不可欠な基礎的コミュニケーション能力や面接技法を主な内容としている。したがって、学生の学習への関心・意欲を高められるよう授業展 開を工夫した。具体的には、支援事例の検討、ロールプレイ等を活用しながら参加型の授業となるよう工夫した。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された〜達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された		やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	各DP項目の達成状況に	ついて授業評価アンケートに	おける学生の到達度評価な	いら見てみると、「知識理解」	(DP1)については、「知識を	を確認、修正したり、新たに
			うだと思う42.9%)とであり、目			

布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

|おいて的確に判断する力を得ることができた」(かなりそうだと思う21.4%、わりにそうだと思う57.1%)であり、目標をやや達成したと考える。「技能表現」(DP5)は「自分 が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(かなりそうだと思う21.4%、わりにそうだと思う57.4%)、「コミュニケーション力や表現力を高 めることができた」(かなりそうだと思う14.3%、わりにそうだと思う57.4%)となっており、これも目標をやや達成したと言える。

一方で、学習量の評価(予習・復習の時間、自発的学習)や図書館の利用状況(利用なし100%)においては、学習時間の確保や学習意欲の向上の面で不十分な 状況にある。

以上のことから全体として十分に教育目標はやや達成されたと考える。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 ①DP上の位置づけ 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

学生の学習意欲向上への課題は見られるものの、授業評価アンケートにおける学生の到達度評価からもDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ

本科目は対人援助の基礎的技術(特にコミュニケーション技術、面接技術)を修得する科目である。これらは3年次開講の相談援助実習において不可欠な技術で あり、CPおよびカリキュラムマップ上に問題はないと考える。

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DX = ICO	0	0	×	0	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

本科目は2年次の必修科目であるが、社会福祉士指定科目でもあり、3年次の「相談援助実習」に向けた社会福祉の初歩的な専門的知識、技術を習得するための 科目である。受講動機を見てみると、「必修科目である」が100%であるが、「資格取得に必要である」は30.8%、「関心のある内容である」は7.7%に留まっており、相 談援助職へのモチベーションの低さがうかがえる。本演習では、グループワークやロールプレイを用いた体験学習や、事例を用いた援助方法の検討を行う。できる だけ実践場面を想定し、ロールプレイを多く取り入れた。またそれらがどのような場面で用いられるのか、視聴覚教材等を用い、実践とのつながりが意識化できるよ う試みた。毎時間ごとにはふり返りの時間を設け、学生のコメントを次回の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設 けた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

成績の平均点は79.0点であった。また学生の自己評価をみてみると、「自分なりの目標を達成した」の平均値が4.2点となっており、概ね達成されたと考える。DP1に かかわる「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値はそれぞれ、4.3点、4.0点で、概ね達成 されたと考える。次にDP2にかかわる「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野にお いて、的確に判断する力を得ることができた」の平均値はいずれも4.2点であり、概ね達成されたと判断した。最後にDP5に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野 で必要となる技術を身につけることができた」、「コミュニケーションカや表現力を高めることができた」の平均値はそれぞれ、4.4点、4.3点であり、概ね達成されたと判 断した。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は社会福祉士資格の指定科目であると同時に、「社会福祉の専門を学ぶ」科目として位置付けられている。4. にも記したように、社会福祉的な視点や考え方 を得たり、専門分野における課題を検討する力や、判断する力を得ることができたという学生の自己評価から、内容的に妥当であったと考えられる。さらに、職業倫 理や行動規範、職業選択の選択になったという項目についても、平均値が4.2点、4.1点となっており、内容的に妥当であったと考えられる。

②DP、行動目標からみての内容的妥当性

4. に記したように内容的妥当性には問題がなかったと考えられる。

	学生の授業の質評価では、「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はおらず、平均値4.2-4.6点であった。特に「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は平均値4.6点と高かった。学習量の評価をみてみると、予復習をした学生は少数にとどまった。自発的学習をうながしていく必要がある。また図書館利用については、図書、雑誌、学術データベースの利用は少数であったが、インターネットは50%以上が利用していた。図書や雑誌等の文献利用を今後はうながしていきたい。
<授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

/. 総括的評価と米年度に向けての課題	
達成状況の終括的評価と課題をお示しください。	本科目は社会福祉士指定科目でもあり、3年次の「相談援助実習」に向けた社会福祉の初歩的な専門的知識、技術を習得するための科目である。4. に記した学習達成度の自己評価、6. に記した授業の質評価より、概ね授業の目標は達成されたと考える。受講動機は「必修科目である」との回答が多かったが、「職業選択の参考になった」に対する学生の自己評価は平均値4.1点となっており、相談援助職へのモチベーションを高めることにも一定つながったと考えられる。図書等の文献利用を含めた自発的学習をうながしていくことが今後の課題である。

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
nA = ICO	0	0	×	0	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

受講動機は、「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」7.7%であった。本科目では、相談援助専門職に必要な知識・技術・価値・実践の原則・視点と支援方 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」法などについてロールプレイや事例を用いて学ぶ。受講動機が「必須科目である」が多いため、受講した学生に関心を持ってもらうことが必要である。そのため、オリ エンテーションや講義内において、本演習により得られた学びが将来の仕事にどのように活かせるのかについて説明するよう心掛けた。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	
					すべき行動目標と関連する 「東色も理解する親与りき	

*根拠として,成績(トータルの成績,行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

り、新たに得ることができた」平均値4.5点、「コミュニケーションカや表現力を高めることができた」平均値4.4点、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」 平均値4.3点、「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」平均値4.3点であった。また、自由記述では「講義だけでは理解 できない面接技法の効果等をロールプレイを通して体験することができた」「演習(ロールプレイ)がたくさんあり、解説も分かりやすかった」等のコメントもあった。ま た、再履修者も0名であった。これらのことから、教育目標は達成されたと判断した。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、カリキュラムマップにおける専門教育科目である。全ての学生が標準レベ 性の評価を記入してください。 ル以上に達したことから内容は妥当であると考えらえる。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、社会福祉士受験資格取得のための必須科目であるとともに、ヒューマンサービ

ス専門家に必要な知識(DP1)、思考判断(DP2)、技能表現(DP5)を習得する科目である。学生の目標達成状況からDPにおける内容は妥当であると考えられる。 また、アンケートの自由記述には「講義だけでは理解できない面接技法の効果等をロールプレイを通して体験することができた」「演習 (ロールプレイ)がたくさんあり、解説も分かりやすかった」等の記述もあった。学習到達度自己評価および自由記述の内容から、内容的妥当性に問題はないと考え られる。

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。	授業の質の評価については、5項目中4項目が平均値4.0点以上であった。特に、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が 作られいていた」は、平均値4.5点、「説明は理解しやすいものであった」平均値4.4点であった。今後も、学生が主体的に参加することができる授業を実施していく。また、前年度の改善策として、インターネットからの情報だけでなく、図書や雑誌などを学生が活用できるような課題を提供するように努めることを掲げた。しかしなが ら、「インターネットのホームページを検索した」約4割、図書館や雑誌などの活用は1割以下であったため、次年度は、明確な課題を提示していていく。
〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	

7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業評価アンケートの結果および成績から、教育目標を達成することができたと考えられた。相談援助専門職に必要な知識・技術・価値・実践の原則・視点と支援方 法などについて学ぶ科目であるが、到達度自己評価の「職業選択の参考になった」の平均点が3.7点であり、他の項目に比べ評価が低かった。次年度は、相談援助 専門職の業務内容や活躍の場などについても理解が出来るようなグループワークや資料の提示等を行う。

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DA I I I	0	0	×	0	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

必修科目であり、学生の授業への関心・学習準備性にはばらつきがあると考えられる科目である。一方で、対人援助職をめざす学生にとって重要なコミュニケー ション力や面接技法について習得する内容であり、学生の学習意欲を高めると同時に実践の基礎となる力を習得できるよう、ロールプレイの実施、具体的な支援事 例を提示してグループディスカッション形式での事例検討など、授業内容と授業方法を工夫した。

「学修準備性」、自由記述の意見など

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

前年度までと比較して今年度のクラスに特徴的であったことは、到達度自己評価の項目の中で、「コミュニケーションカや表現力を高めることができた」の平均値が 4.3と最も高い値であったことである。グループワークやロールプレイイング、グループディスカッションなどの課題への取り組みの様子、発表内容や課題シートの記 述内容などを総合してある程度の成果が得られ、達成されたと考える。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当│①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は福祉専門科目の導入にあたる科目であり、必修科目である。学生の授業への関心や学習準備性にはばらつきがみられたものの、授業への取り組み、達 成状況においてはある一定の成果が得られたことから、内容的には妥当であると判断できる。

②DP.行動目標からの内容的妥当性

それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性には問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値が3.9と低い値であった。提出物や授業中の課題などに関する評価 基準を提示していたが、グループディスカッションやロールプレイイングなどの課題を課すねらいと行動目標を学生にわかりやすく伝えるよう改善し、克服していきた い。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成度自己評価の結果と学生の授業への取り組みや提出物から、教育目標はある程度達成できたと考えられる。さらに学生の学びを深める意欲を高め、自発的学習に結びつくよう工夫していくことを来年度の課題としたい。

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅳ	3	前期	選択		17

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DX = ICO	0	0	0	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしてし	^ること, 重点を	おいたことをこ記。	人ください。
開講時の学生の学習準備性を示	し,授業計画に	どう活かしたかを、	「受講動機
なども参考にして記述してください	い。昨年度に授	業の改善計画を立	てた場合は、
これをどう具体化したかを併せて	ご記入ください。	0	
ノボ 光 ニエ /エ の おとまっ			

<授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など

実践の経験は持たないことは当然のこととして、どのようなケースであろうと向き合わなくてはならないのが実践の場です。対象別の関心で、ややもすると自分の関 心分野のみに目が行きがちですが、どのような対象であれ年齢や性別、興味以外のことでも、人への関心を持ち理解することから始まります。、そこで、高齢者、子 |ども、身体障がい者、難病、精神障害、そして、すべてに共通する本人や家族の思いに寄り添いながら、事例を読み解く習慣をつけてもらいたいと説明を施した。ま た、新聞や書籍を読む際にわからない用語を読み飛ばしがちであると考え、わからない言葉や内容がないかを確認しながら内容を吟味させた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	3 H MUITS 200 - 1 H 1	準備と復習に時間を割いて 事象を理解する視点や考える		1 12 2 10 10 2 2 10 2 1		7 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 - 本(標準停美 S. A. B. C. Dの度数) 独自に設けた基準による達成度 学生		₱家と垤肝りる忧点で考える D場で考えさせたことから、−				
〈授業評価の指標〉 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 「受講動機」の回答者に「関心のある内容である」とした者が21.8%いたことは評価できる。「学習到達度の自己評価」で「知識を確認、修正したり、新たに売ることが 性の評価を記入してください。 できた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」に回答した者がともに4.1と高い回答であったことは良い結果と受け止めたい。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の賃の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	一事例ごとに学ばせたが、事前に資料を配布し、調べ学習をさせればより効果があったものと反省する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	事例であっても、未知の分野、内容であり、困惑することもあったと思うが、実践現場では当たり前の現象。その点だけでも認識され、知らないでは内容の理解も仕事もできないことだけは理解できたと思われる。

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅳ	3	前期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
nA∃I⊂U	0	0	0	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

本科目は社会福祉士指定科目(3年次対象・選択)の1つであり、相談援助演習皿(2年次後期)及び相談援助演習 V(3年次後期)と連動し、教員5名のオムニバス 形式で展開している。主な内容は各教員の専門領域(障害福祉、高齢福祉、児童福祉、医療福祉、地域福祉)における事例を活用し、支援内容の検討やグループ ディスカッション、ロールプレイ等を行っている。

授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「資格取得に必要である」(73.3%)、「必修科目である」(46.7%)が見られ、社会福祉士取得を強く意識した動機 がうかがえる。一方で「関心のある内容である」は0%となっており、学生の関心・意欲等を高める授業内容・展開を工夫する必要があると考える。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

全体の成績は平均79.6点であり、この点では教育目標はある程度達成されたと考える。各DP項目について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価か ら見てみると、「知識理解」(DP1)については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(かなりそうだと思う13.3%、わりにそうだと思う53.3%)であり、目標は やや達成されたと言える。「思考判断」(DP2)は「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」(かなりそうだと思う6.7%、わりに そうだと思う53.3%)となっており、目標はやや達成されたと言える。「意欲関心」(DP3)は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つ ことができた」(かなりそうだと思う6.7%、わりにそうだと思う53.3%)であり、目標はやや達成されと考える。「態度」(DP4)については、「職業倫理や行動規範について学 ぶことができた」(かなりそうだと思う6.7%、わりにそうだと思う53.3%)であり、目標はやや達成されたと言える。「技能表現」(DP5)は、「自分が学ぼうとしている専門分 野で必要となる技術を身につけることができた」(かなりそうだと思う6.7%、わりにそうだと思う46.7%)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(かなりそ うだと思う6.7%、わりにそうだと思う40.0%)であり、目標はやや達成されなかったと考える。

この他、学習量の評価(予習0回86.7%、復習0回73.3%)や図書館の利用状況(利用しなかった93.3%)から学生の主体的学習態度という点ではやや課題が残るも のの、総じて教育目標はある程度達成されたと考える。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 ①DP上の位置づけ 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

全体の平均点79.6点や授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価を見ても教育目標はある程度達成されており、DP上の位置づけに問題はないと考え

②CP,カリキュラム上の位置づけ

本科目は相談援助の専門的視点や態度、知識・技術を実践的に修得するものである。これらの学びは相談援助実習(3年次)の展開において不可欠であり、本科 目のCP及びカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	教育目標はある程度達成されたと考えるものの、学生の学習量の確保や自発的学習態度の涵養という点では課題が明らかとなった。既述の通り、本科目は相談援助演習皿・Vと連動しながら各専門領域の援助実践を学ぶ科目である。今後は明らかとなった課題について担当教員と共有し、改善策を検討していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の教育目標はある程度達成されたと考える。今後も担当教員間の連携を十分に図り、授業内容・展開方法の質の向上を目指したい。

	·-··		-				
学科	福祉学科						
氏名	山根 正夫						
. 基本情報						1	_
	科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数	
	相談援助演習Ⅳ	3	前期	選択	いいえ	16	
観点・DP上の位置							
	該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)	
	BA = 100	0	0	0	0	0	
授業準備について	- 大切にしていること,重点をおいたことをご記入ください。						
(授業評価の指標>							
授業評価の指標> 学修準備性」, 自由記	記述の意見など						
授業評価の指標> 学修準備性」, 自由記 学生の目標達成状	記述の意見など						
授業評価の指標> 学修準備性」,自由記 . 学生の目標達成状 1)教育目標は達成さ	記述の意見など	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
授業評価の指標> 学修準備性」,自由記 学生の目標達成状)教育目標は達成さ	記述の意見など	全体を通して やや達成された	知識理解(DP1) やや達成された	思考判断(DP2) やや達成された	意欲関心(DP3) 達成された	態度(DP4) やや達成された	技能表現(DP5) やや達成された
〈授業評価の指標〉 学修準備性」、自由記 ・学生の目標達成状 1)教育目標は達成さ 選んでください。観点	記述の意見など	全体を通してやや達成された		やや達成された			
授業評価の指標> 学修準備性」,自由記 学等を準備性」,自由記 学生の目標達達成式 (学生の目標達達成式 (表達達成でください。観点 を を を は、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	記述の意見など 大況について されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか 点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。 一切の成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生 の結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ	全体を通してやや達成された	やや達成された	やや達成された			

<授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」,自由記述の意見など

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	演習の意図及び授業の構成についてオリエンテーション時に、もう少し詳しく説明しておく必要性を感じる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	課題は概ね達成できていると考えられる。次年度から更に学習が深まるよう動機付けしていきたい。

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅳ	3	前期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DX = ICO	0	0	0	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

本科目は3年次の社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目である。学生の受講動機をみてみ ると、「必修科目である」が78.6%、「資格取得に必要である」が57.1%であった。本演習は相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴと連続しており、学生はすでに相談援助演習Ⅲを履 修している。また本演習は「相談援助実習」とも同時進行で行われるため、学習準備性は一定程度あると考えられる。本科目では、福祉的課題を抱えた人々への相 談援助の事例を活用し、相談援助の展開とそこで活用される専門的な知識・技術の習得に向けた実技指導を行う。演習ではできるだけ多くの事例を用い、「相談援 助実習」で実践的に用いられる社会福祉の視点や職業倫理、援助技術を習得できるような内容となるよう工夫した。また相談援助の実践ではチームアプローチが基 本となるため、できるだけグループワークを通して課題解決を導く演習となるよう工夫した。毎時間ごとにはふり返りの時間を設け、学生のコメントに対してフィード バックを行ったり、次回の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設けた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は,該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

成績の平均値は、82.3点で、86%の学生が8割以上の成績を修めていた。また学生の学習到達度の自己評価をみてみると、「自分なりの目標を達成した」の平均値 が3.9点であった。これらの点から概ね目標は達成されたと考える。DP1にかかわる「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考 え方を得ることができた」の平均値はそれぞれ、4.4点、4.1点であった。DP2にかかわる「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ること ができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値はいずれも4.3点、DP3にかかわる「自分が学ぼうとしてい る専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値は4.1点であった。DP4にかかわる「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平 均値は4.3点、DP5にかかわる「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値は4.4点でった。これらの結果より、概ね目標は達成されたと考える。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 [①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本演習は「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目として位置付けられている。4. に 記したように、専門的知識の習得、課題解決能力、判断力、学びへの意欲、コミュニケーションカに関して、学生が十分な自己評価を得られているため、内容的妥当 性には問題がなかったと考える。

②DP、行動目標からみての内容的妥当性

上記同様、内容的に妥当であったと考える。

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価では、「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はおらず、平均値4.2-4.6点であった。特に「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は平均値4.6点と高かった。学生の意見においては、毎回のふり返りでの教員のコメントがモチベーションを向上させることにつながったとあった。今後も丁寧なフィードバックの機会は十分に設けていきたい。学習量の評価をみてみると、2、3回以上の予習をした学生は7割を超えており、課題等により予習を促すことができたと考える。一方2、3回以上の復習をした学生は3割以下にとどまり、さらに自発的学習をうながしていく必要がある。また図書館利用については、少数にとどまった。文献等の利用をうながす工夫が必要である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	┃ 木利日は「相談採助宝習」と連動して行われる相談採助の知識・採助技術を学ぶ演習利日であり、「社会福祉宝珠の展閲」の利日である 4 に記した学習達成度 ┃

/. 総括的評価と米年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目である。4. に記した学習達成度の自己評価、6. に記した授業の質評価により、概ね授業の目標は達成されたと考える。今後は文献利用等の自発的学習をさらにうながしていく取組みが必要である。

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅳ	3	前期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DX = ICO	0	0	0	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

受講動機は、「資格取得に必要である」80.0%、「必須科目である」60.0%、「関心のある内容である」10.0%であった。本科目は、相談援助の展開とそこで活用される専 |門的な知識・技術の習得を目指している。相談援助場面について具体的なイメ―ジを抱くことが出来るように、 福祉的課題を抱えた人々への相談援助の事例を活用 した。また、学生が主体的に学ぶ機会を確保するために、グループワークも実施した。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された
				における学生が到達すべき 来た」平均値42点、「自分が		を確認、修正したり、新たにこついて、学びを深めたい

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分

布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

と意欲をもつことができた」平均値4.1点、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることが出来た」平均値4.0点、「職業倫理や行動規 範について学ぶことができた」平均値4.0点であった。また、再履修者は0人であった。これらのことから、全ての学生が標準レベル以上に達しており、教育目標は達 成されたと判断した。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、カリキュラムマップにおける専門教育科目である。全ての学生が標準レベ 性の評価を記入してください。 ル以上に達したことから内容は妥当であると考えらえる。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」,自由記述の意見など

②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、社会福祉士受験資格取得のための必須科目であるとともに、ヒューマンサービス専門家 に必要な知識(DP1)、思考判断(DP2)、意欲関心(DP3)、態度(DP4)、技能表現(DP5)を習得する科目である。学生の目標達成状況からDPにおける内容は妥当である と考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については、5項目中4項目の平均値が4.0点以上であった。特に、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られいていた」は、平均値が4.5点、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」平均値4.4点、「説明は理解しやすいものであった」平均値4.3点であった。しかしながら、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」に関しては、平均値3.9点であった。次年度は、学習の範囲や課題について、講義内で学生に分かりやすく伝えるよう努める。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業評価アンケートの結果および成績から、教育目標を達成することができたと考えられた。次年度は、自主的な学習を実施しやすい課題や情報を提供していくこと が課題である。

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
総合人間学概論	1	前期	必修	はい	86

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
ix∃ic∪	0	×	×	×	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

|本学の教育目的を実現するための一年前期の必修科目である。授業はオムニバス形式で行われ、授業回数は8回であった。第1回では、建学の精神について学長 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」が、第2回と3回では女性として、生涯を身体的、精神的に健康に過ごすために必要なことについて専門家が講義した。第4回~8回ではキャリア形成について、地域 |貢献、国際的な視野、男女共同参画、学科のキャリアモデルという側面から、それぞれの専門家が講義を行った。 受講動機としては、「必修科目である」、「資格取得に必要である」と答えた学生はそれぞれ96.1%、2.6%であった。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	最終的な成績の平均値は	183.3(±6.0)点であり、再試	対象者はいなかった。成績	分布別にみると、90点以上7	が17%、89~80点が68%、7	79~70点が12%、69~60
*根拠として,成績(トータルの成績,行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差,S,A,B,C,Dの度数),独自に設けた基準による達成度,学生	学生による到達度自己評)学生が標準的レベルに達し 価をみると、「自分なりの目 まる党生の到達席自己部係	標を達成できた」では平均値	が3.3であり、約93%の学生	上が肯定的に捉えていた。	154.

の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目2と3)についても、平均値は3.4であり、約94%の学生が肯定的に捉えていた。 「態度(DP4)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目9)についても、平均値が3.2であり、約90%の学生が肯定的に捉えていた。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 本科目は「総合人間科学(心身と健康)科目」であり、本学の教育目的を実現するための必修科目である。成績評価や到達度自己評価からみて一定の成果を収め 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

ており、内容的には妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 い。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など 学生による授業の質評価については、平均値が3.3~3.7であったことから、授業の進め方は概ね良好であったと考える。 学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習、復習をまったく行っていなかった学生がそれぞれ84%、71%もあり、また授業課題以外の学習に取り組んでいない理由として、「何をしていいかわからなかった」、「特にすること・課題がなかった」、「他で忙しかった」が多かった。 また、授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として、「何をしていいかわからなかった」、「特にすること・課題がなかった」、「他で忙しかった」が多かった。

ターネット利用」学生の意見など	
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生が建学の精神に触れると同時に、専門科目ではきくことのできない幅広い内容について学ぶことで、「専攻する学問分野の違いを超えて学習する上での根幹となる総合的視点と豊かな人間性を育てるための教養教育」という総合人間科学の目的は達成されていると考える。

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域保健学Ⅱ	4	前期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
改当にし	0	0	0	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習(病院実習)、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては「資格 |取得に必要である」91.7%、「必須科目である」37.5%、「関心のある科目である」25.0%であった。このことから、授業では、地域保健学 I で学んだ知識を基礎に、で きるだけ具体例を示し、グループワーク、ロールプレイ等を取り入れ、関心を高めるように心がけた。

②地域保健学Iで学んだ知識を基礎に、授業では、学んだ知識を表現するためにグループワークを取り入れ、学んだことを発表し、知識の定着を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

最終的な平均値は77.4点(±10.3)、再試験対象者は0名であった。理想的レベル(80点以上)は、12名であった。

目標別の達成度は知識理解に関しては、68.6%、思考判断74.5%、関心意欲75.0%であった。知識理解では、基礎的な問題は発展問題ともに出題したが、発展問 題の正答率が低かった。基礎的な知識を活用し、応用して問題を解くことの理解が十分ではなかったと考えられる。授業で基礎的な知識の定着を図りつつ、グルー プワーク等を通して応用力の定着を図るよう授業構造を改善していきたい。

学生の授業評価においては、知識理解の観点、思考判断の観点の自己評価にはあまり差はないことが示された。関心意欲が高く(平均値4.4中央値5.0)、職業選 択の参考になったと答えた学生が高い(平均値4.3、中央値5.0)一方で、自分なりの目標を達成したと答えた学生の割合が低かった(平均値3.7中央値4.0)。

これは、学生が知識理解の観点において、応用問題が出された場合に基礎的な知識を活用していくことに課題があると考えられる。次年度に向けて、基礎知識を 活用し応用問題に対応できるように授業構造を改善していきたい。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 (①CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、「保健・医療関係科目」である。また、養護教諭一種免許状を取得するための「養護実習」の履修要件科目である。受講動機から見ても多くの学生が「資 格取得に必要であるため」と91.7%が答えている。また、授業評価では「専門分野において学びを深めたいと、意欲を持つことができた」(平均値4.4中央値5.0)と答え ている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。

②DP、行動面から見ての内容的妥当性

成績評価から見て、知識理解に関する達成度が比較的低かったが、基礎知識を活用し、応用問題に適応するように授業構造を検討していくことから、内容的には 妥当であったとと考える。また学生の授業の課題以外に取り組んだこととして、授業内容を活かし、教員採用試験対策に取り組んでいた。

以上のことから、内容妥当性には問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 事た、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 また、授業の課題以外に具体的に取り組んだ内容として、学生の意見としては授業の内容を活用し、教員採用試験の勉強に生かし学習に取り組んでいた。 〈授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学8のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など 7. 総括的評価と来年度に向けての課題

7. 総括的評価と来年度に向けての課題 達成状況の総括的評価と課題をお示しください。 本科目は、養護教諭の一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識理解の面は概ね達成できたが、学校現場では臨機応変に対応することが求められる。基礎的な知識を定着させ、さらに学校現場で活用できるような実践力が身につくように授業構造を改善していきたい。授業内容について基礎的な知識の定着を図るとともに、復習課題を設け応用問題等の提示をし、応用力の養成に取り組んでいきたい、。

学科	福祉学科
氏名	篠原 征子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国語 I	1	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該国にひ	0	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

①本科目は中国語の基礎知識を学習するものである。初心者にとって外国語は難しい、とくに発音の難しい中国語は、挫折しやすい。授業の実施にあたり大切にし ていたことは学習者によい学習習慣を身に付けさせ、楽しく学ばせることである。今回の受講動機をみると「関心のある内容である」が66.7%であり、充実且つ楽しい 授業をして、より関心を持ってもらうよう努力する必要があると感じた。授業ではちょっとハードな発音練習のあと、中国の文化や風習、考え方、最新事情なども紹介 したりして、学習者のモチベーションを高め、さらに関心を引き付けるようにしている。

②開講時に4段階の学習目標や、学習方法を明示し、「学習状況記録表」を作り、学習者に配布し、学習効果を常に確認できるようにした。

③各課に漢字テスト、暗記テスト、コミュニケーションを行い、学習者に「わかった、できた、つながった」の学習喜びを感じさせ、間違ったところをしっかり復習しようと いう意識を高めるようにした。

④各課学習したあと、「マイ・コミュニケーション中国語」のリストを作成させ、モチベーションを高めるようにし、次のステップへ進む準備をさせた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

最終的な成績の平均は86点であり、標準的なレベルに達し、理想的レベルまであと少しであると言える。

学生による到達度自己評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることがてきた」の平均値は4.4で、中央値は5.0であり、「コミュニケーション力や表現力 を高めることができた」の平均値は4.4で、中央値は5.0であった。平均値と中央値に差が見られたことは多くの学生は目標到達したと実感している一方、一部の学生 はまだ十分に到達したと実感していないと考えられる。来年度はより多くの学生が、「分かった・できた・つながった」を十分に感じられるように授業内容を研究したい と考えている。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

| DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当|(1)CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容の妥当性 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は「総合人間科学」に属する選択科目という位置にある。この授業で学生によい学習習慣を付けさせ、中国語の基礎知識をしっかり把握させ、分かる、でき る、通じるという喜びを感じさせ、中国語大好き人間にさせることが最も重要だと考えて授業を進めた。学生も優秀な成績を収めていることから、内容的には妥当で あると考える。

②DP、行動目標からみての内容的妥当性

「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の項目の中央値は4.0であり、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざ まな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の2項目の平均値と中央値が共に 3.0であることからみて、内容的には妥当であったと考える。

③自由記述の意見

自由記述から、「中国語がたのしいです!」、「先生の授業はすごく楽しかった!」「中国語難しいけど好きです」などがあった。これらの記述からみて、内容的には妥 当であったと考える。

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 (授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など 7. 総括的評価と来年度に向けての課題 7. 総括的評価と来年度に向けての課題

7. 総括的評価と来年度に向けての課題		
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「総合人間科学」の一科目として位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。 来年度に向けての課題は、来年度の学習者の心理や好みをできるだけ多く把握し、学習者に合った教授法を研究することである。	

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道徳教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DX =1 CU	0	0	0	0	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にして	いること,重点をは	らいたことをご記入	ください。
開講時の学生の学習準備性を表	示し、授業計画にる	どう活かしたかを、	「受講動機
なども参考にして記述してくださ	い。昨年度に授業	の改善計画を立つ	てた場合は
これをどう具体化したかを併せて	てご記入ください。		
ノゼ業団体の比価へ			

| 教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道徳教育の実施状況から考えて、非常に意識しはい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道徳教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。

「学修準備性」、自由記述の意見など

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

平均点は71.9点(昨年度は75.1点)、合格率は83.9%(昨年度は97%)であった。平均点を70点程度と予想しており、予想通りの結果であった。 秀は9.7%(昨年度は21.2%)、優は29%(昨年度は27.3%)であり、全般的に成績は低下している。

指定された枠組みを守りながら最低限のアウトプットはできており、知識理解については満足できる。

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当		
性の評価を記入してください。		

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

単にお示しください。	授業の進め方としては(1)道徳とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道徳教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道徳の授業を組み立てる、というものであった。 時間外に質問に来るなど積極的な学生と、そうではない学生の間に差が見られた。質問内容を授業で紹介するなど個別指導を全体にフィードバックしていきたい。
<授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	

7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「下位層の学生の底上げ、特に授業展開にかかわる質の向上を目指したい。達成状況からすると、基本的な部分は達成できたが、自分なりの工夫という部分で弱い学生がいる。具体的にどのような形で授業を構想すればよいのかという点を理解してもらえるような工夫を行いたい。」というのが前年度の課題であった。ひとつめに関してはむしろ成績が低下しており、これは福祉学科における選抜がなくなったことと関連している可能性がある。選抜とは関係なく、教職課程への動機づけを高められるような別組みを進めていきたい。 ふたつめについては他学科同様課題が残った。ただ少数の学生は自分なりの授業づくりという意識をもち、最終的な指導案にもそれが表れていた。このような学生を少しでも増やせるよう、教材研究レベルでの工夫や様々な授業実践の事例紹介をさらに工夫したい。

学科	福祉学科
氏名	近藤 憲一郎

1. 基本情報

科目名配当学年		前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数	
特別活動論 3		前期	選択	はい	33	

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1) 思考判断(DP2)		意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DX = ICO	0	0	×	0	×

3. 授業準備について

技業の美施にめたり大切にしていること、里点をおいたことをこ記入くたさい。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機
なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、
これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
and the firm of the laws

|<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

① 受講動機として100%の受講生が「養護教諭免許の取得のため」と回答している。そのため、できるだけ養護教諭を想定した事例等の準備を行うなど、受講への 興味関心を醸成しようと考慮し、資料や事例等の選択・取扱いのできるだけ工夫し手受講への興味関心を高めるよう努めた。 昨年度と同様、授業の最初に小・中・高等学校時代の特別活動の思い出を記述する時間を確保するとともに、互いに思い出を交流し合うことを通じて、特別活動へ の様々な思いに触れさせ、特別活動への興味関心を深めるよう受講動機の強化を図った。 0回の講義後、これまでの講義から誘発された問題意識の中からテーマ設定したレポートを提出するよう課題を与えて、これまでの学習状況を振り返るようにした。 また、その際、レポートの記述の参考となるレポート事例資料を配布し、課題追及への興味関心とレポートの質的向上を図った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。		は80.1点であり、再試対象者 人(3•0%)だった 受講者に				やや不満足なレベル(60た状況である。また 平均値

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

は、3.7~4.2という高い数値を示していた。今後とも、到達度自己評価や授業の質評価の向上等に向けて、できるだけ分かりやすく具体的資料や事例や場面等 |の選択・取扱い等に工夫するようにしたい。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

本科目は、養護教諭免許の取得には必修の内容であるが、受講生も満足する成績を収めていることから内容的妥当性には問題はないと思われる。今後とも、免 性の評価を記入してください。 許取得を前提として受講している受講生の希望にさらに応えることができるよう工夫することが求められている。

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。	学習量の評価、情報利用、図書館利用のいずれも、低いレベルにおけるやや二極化の状況が見受けられる。例えば、シラバスの活用では、「参考にした25%「、「しなかった75%」、図書館の利用では、「利用した34%」、「しなかった64%」、学術データベースの利用では、「利用した22%」、「しなかった78%」、インタネット利用では、「利用した47%「、「しなかった53%」といった状況である。そのため、今後は、一人一人の状況に応じたきめ細かな指導も求められていると思われる。
<授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	
つ 松枝ぬ頭供し本佐座にウはての部野	

7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	特別活動の特質、目標、内容等についての基礎的知識の形成については十分達成することができた思われるが、なお一層の具体的資料や指導の実際の事例提供について工夫が求められている。その背景には、本科目の受講生には、中等教育の英語教諭(学級担任)を目指す者と、初等、中等教育における養護教諭と栄養教諭を目指す者とが共に受講していることがある。そのため、特別活動の具体的な指導のあり方について、受講生の興味関心をできるだけ高めるための調整を図りつつ、さらなる工夫が求められている。

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名 配当学年		前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
発達心理学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
DX =1-CO	0	0	0	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

|受講動機によると、本授業は、資格取得に必要とした学生80.0%、単位修得のためとした学生40.0%から成っていた。

①本授業は発達の後期にあたる「青年期、成人期、老年期」を取り扱っており、まだ学生が経験したことのない発達段階も含まれていることから、家族などの身の回 りの年長者、将来仕事上で遭遇するかもしれない被支援者、そしていずれ自分自身にも訪れるものであることを意識してもらいながら、理論や知識を提供するように した。

②青年期、成人期前期・後期、老年期の各時期における、身体・運動・感覚・記憶・認知・知能・家族生活・社会生活等各領域ごとの発達的変化について、データや 理論を提示しながら説明を行った。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

|平均点は80.9点であり、80点以上の者が71.4%であった。再試験に該当する学生はおらず、概ねすべての学生が標準レベルの学力を修得することができた。

学生の到達度自己評価においても、殆どの学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と答えている。特に、知識獲得(3.8)、判断力(3.7)、意欲(3.7)の値が高くなっている。

図書館利用者が少なかったのは、本授業が基本的知識を修得する科目であるため、学生が授業内容を重視した結果、図書館等で新たな知識を得る行動に至らなかったのではないかと考えられる。また、学習量の評価では準備0回が4名、復習0回が3名であったが、試験は講義第1回から第15回までの全領域からの出題であり、復習をせずに解答できたとは考えられない。アンケート後の試験前には十分に復習を行ったのではないかと考えられる。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 本授業は、1年後期の発達心理学 I の後に続くものとして、2年前期に設けられている。 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

発達心理学 II は「青年期、成人期、老年期」の発達心理学を学ぶものであり、人間理解の科目として、実習前に設置されていることは妥当であると考えられる。 学生も概ね苦労なく取り組めており、授業内容としても2年次前期にふさわしい内容になっていると考えられる。

	テキストに沿って進めたが、不足する情報は適宜ブリントして配布した。説明には、パワーポイントを用いて、視覚的に整理され分かりやすく伝わるように工夫をしている。個別にも指導を受けやすいよう、授業の最後に質問の時間をとるなど工夫している。アンケートでは「説明は理解しやすいものであった」が4.0と高得点であった。
<授業評価の指標>	毎授業終了間際に小レポートの提出を求めているが、殆どの学生が授業内容を自分自身の経験や身の回りの他者から得た情報、これまでの知識等の具体的事象と適切に結び付けて考察することができており、これは授業内容の復習にもつながったのではないかと考えられる。
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生アンケートには「老年期の様々な問題だけでなく、良い面も学ぶことができたのでよかったです」と意見があり、授業内容への理解と関心が深まったのではないかと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね達成できた。 全ての学生が単位修得することができた。

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉経営論	4	前期	選択	いいえ	74

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該国にU	0	0	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること,重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し,授業計画にどう活かしたかを,「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

本科目は4年次の社会福祉士指定科目であり、「社会福祉実践の応用と深化」をねらいとした福祉専門科目である。受講動機を見てみると、「必修科目である」が 42.2%、「資格取得に必要である」が73.4%となっている。福祉経営という学生にとってはイメージしづらい領域であるため、新聞記事で時事的な問題を提示したり、 DVDなどの視聴覚教材を用いたり、また実習での体験と結びつけられるような話題を提示したりして、できるだけ学生が身近な内容としてとらえられるよう工夫した。 また4年次の科目で国家試験を間近に控えているため、過去問を適宜提示し、授業内容と国家試験問題の内容が結びつくようにした。また毎回のコメントカードによ り学生の質問や意見等を求め、次回の講義の冒頭で質問等に答えるなどのフィードバックを行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された			

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

成績の平均点は71.9点であり、再試対象者は7名であった。評価割合はA評価5.4%、B評価24.3%、C評価31.1%、D評価29.7%、E評価9.5%となっており、D評 価、E評価が4割を占めていた。学生にとっては難解な科目であるが、さらにわかりやすく伝えていく工夫を行い、全体の底上げ図っていく必要がある。学生の「自分 なりの目標を達成した」の自己評価では、平均値3.1点、「まあまあそうだと思う」以上の学生が8割以上を占めていた。このことから、目標達成はどちらともいえないと 判断した。DP1に関わる「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考えを得ることができた」の平均値はそれぞれ、3.6点、3.4点で あり、「まあまあそうだと思う」以上の回答をした学生が9割以上を占めていた。またDP2に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を 得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値はそれぞれ、3.5点、3.3点であり、「まあまあそうだと 思う」以上の回答をした学生が9割以上を占めていた。これらの点からやや達成されたと判断した。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

| DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当|①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

4. で記したとおり、学生の自己評価からは内容的には妥当であったと考えられる。ただし学生の成績には点数の開きがあり、全体の平均点も低かった。本科目 は社会福祉士の国家試験科目であるため、さらに学生の理解を高めるようなわかりやすい講義内容へ工夫していく必要がある。さらに自発的学習を促していく工夫 も必要である。事例等を用いた学習や、課題への取組みを通して、さらに学生の理解をうながしていきたい。

②DP、行動目標からみての内容的妥当性

上記にも記したとおり、概ね内容は妥当であったと考えられるが、学生の理解を高めていくような取り組みや、自発的学習を促すさらな

る工夫が必要である。

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	名いた。学生からの意見に「テスト範囲を早めに教えてほ」かった」があった。讃義最終回にテスト範囲を示したが、今後はもう少し早い段階で提示していきたい。ま
--	---

い領域であるが、学生への理解をさらに促し、次年度以降、成績の底上げを図っていきたい。4. で記したように授業目標の達成度は「どちらともいえない」と判断した。さらに学生の理解をうながしていくため、できるだけ学生が身近な話題としてとらえられるような工夫や、事例等を用い、分かりやすい説明に努めたい。またそれらが国家試験の勉強と結び付けられるよう促していきたい。また学生への評価基準等は、学生に伝わりやすいように明示していきたい。自発的学習についても、課題等を工夫してうながしていきたい。

Ī	学科	福祉学科
	氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉行財政と福祉計画	3	前期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
改当に	0	×	0	×	×

3. 授業準備について

授業の美施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをこ記入くたさい。
開講時の学生の学習準備性を示し,授業計画にどう活かしたかを,「受講動機
なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、
これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
<将業評価の指標>

社会保障制度を構築するうえで、必要になるのが財源である。社会福祉各領域を安定的に実施、運営して行くのも財源との関係が重要となる。そのため福祉行財政 の実際と実施体制について解説し、福祉行政の骨格や法制度を理解するとともに、社会福祉の基礎構造改革から社会福祉法への改正など社会福祉全般に対する 認識と理解が求められていることを理解するこが重要と強調した。

「学修準備性」、自由記述の意見など

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい	『列達度白コ評価』のろう。	がけ今郎太泽 「士太士太ス	・だし田ろ 「わけにそうだし田	コンル作山」 夕頂日に2.5前	多の証価がなり投資を達成	されたレ老ラス 「図書館

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

『到達度目己評価』のうえでは全般を通し「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」に集中し全項目に3.5前後の評価があり指導上達成されたと考える。「図書館、 インターネット利用」少数ではあったが活用し、どの分野の講義にも行財政と計画が存在していることを自覚できた者は少数ではあったが自主的に調べ学習に努め たものと考えられる。

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 「受講動機」は必修科目であることから意味づけは難しいが、「学習到達度の自己評価」は4-(2)に示した通りの結果であったことから社会福祉を学ぶ上での必要っ 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

性を認識してくれたものと理解したい。知らなければ

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡	知らなければならないことだと一方向の講義で、ポイントを示し考えさせる講義にしなければならなかったと反省する。
単にお示しください。	
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しくださ	
U,₀	
<授業評価の指標>	
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン	
ターネット利用」学生の意見など	
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	おおよその達成はされたと考える。

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉臨床心理演習Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
改当にし	×	0	0	0	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

児童領域で用いられることの多いアセスメントツールである新版K式発達検査・田中ビネーV、WISC-IVに関する講義及び実習を行った。それぞれ理論の説明を 行った後、受講者各自が検査者役・被検査者役を取り、検査の施行の仕方・留意点について体験的に学ぶ機会を設けた。被検査者役の学生には、検査中に起こり うる子どもの行動を想定し演じてもらうことで、実践場面に近い場面を設定した。また各検査項目を体験した後に、子どもが検査に回答するにあたり、どのような能力 が関与するのかを考えさせる機会を設け、所見の書き方や読み取り方についての視座を与えるように努力した。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された		やや達成された	達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。						野で必要となる技術を身に
	着ける事が出来た」、「自分ついては、本演習の目的に			「る刀を侍ることかできた」と	いつに項目でてれてれ4.1、	4.2と高く評価している点に

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は「福祉心理臨床の応用と展開」に位置づけられており、内容的に学科のCPとも合致すると考えられる。学生の受講動機として「教員に勧められた」が 69.2%と昨年度と比べて大きく上昇した。障害者領域で実習を行う学生に対して、今年度から担当となった実習担当教員から勧められたとのことであった。数名の学 生から話を聞くと、「先生から勧められなければ受講しなかったかもしれないが、障害領域に興味があるため、受講して良かった」との感想を得た。以上のことから内 容的妥当性はあるものと考える。DP及び行動目標から検討すると、DP2.3.5のいずれもその達成度は標準以上であると評価しており、内容的にも方法的にも妥当で あったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単において「説明は理解しやすいものであった」4.2(昨年度3.7)、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作 単にお示してださい。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 く授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など 7. 総括的評価と来年度に向けての課題 「違成状況の総括的評価と来年度に向けての課題 「達成状況の総括的評価と来年度に向けての課題 「本科目は「福祉心理臨床の専門を学ぶ」にとを目的として科目として位置づけられているが、学生の到達度評価がら、学生自身が将来自分が目指す職業に役立つ

7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「福祉心理臨床の専門を学ぶ」ことを目的とした科目として位置づけられているが、学生の到達度評価から、学生自身が将来自分が目指す職業に役立てものととらえている様子がうかがえた。また成績の平均値も標準的であるため、その教育目標は達成できたものと考えている。

ſ	学科	福祉学科
	氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉臨床心理学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
nA∃ICU	0	0	0	0	×

3. 授業準備について

技業の美胞にめたり大切にしていること、里点をおいたことをこ記入くたさい。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機
なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は
これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
/ 埓業証価の指揮 /

「学修準備性」、自由記述の意見など

本講義はカウンセリングの構造とそのプロセスを総合的に取扱い、クライエントの状況に合わせたカウンセリングの技法について理解を促すことを目的としている。 カウンセリングの諸技法については、社会福祉士の必修科目である「相談援助演習 I 」において学んでいるため、技法そのものについての知識は一定程度はあるも |のと考えられる。しかしながら、技法の理論的背景や状況に応じた技法の用い方、留意点については相談援助演習 I で網羅することは困難であろうと想定されるた め、これらの理解を促していく事に重点を置いて授業を展開した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績の平均値は74.73(±	8.22)であり、標準的なレベノ	レに到達できたと考えられる	。学生の自己評価も全ての	項目において3.3-3.9と比較	的高い数値を示していた。
*根拠として, 成績(トータルの成績, 行動目標あるいはDP別)の平均値や分 (標準停業 S A B C Dの度数) 独自に設けた基準による達成度 学生	特に「自分が学ぼうとしてしてことができた」、「自分が	学ぼうとしている専門分野で	必要となる技術を身につけ	ることができた」の3項目につ	ついては、それぞれ3.9、3.8、	

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

来自分が目指す職業に役立つものととらえている様子がうかがえ、その教育目標は達成できたと評価している。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は福祉心理臨床の応用と展開の中に位置づけられており、学科のCPとも合致すると考えられる。学生も「資格取得に必要である」(50.0%)、「関心のある内容 である」(30.0%)と考えている者が多いため、内容的妥当性があるものと考える。DP及び行動目標から検討すると、DP1.2.3ともにその達成度は標準以上であると評 価しており、内容的にも方法的にも妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度から継続して検討する課題は特になかった。また授業の質評価についても、3.0-3.7と標準的な数値を示していると考えられるため、教育方法論上大きく変更する必要はないものと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「福祉心理臨床の専門を学ぶ」ことの入り口の科目であるが、学生の到達度評価から、学生自身が「将来自分が目指す職業に役立つものととらえている様子」がうかがえた。また成績の平均値も標準的であるため、その教育目標は達成できたものととらえている。

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育の表現技術 I	1	前期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
談当にし	×	×	×	0	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

ピアノ奏法の学習準備性においては、幼少期から大学入学前までの経験の有無によって大きく異なるため、予めピアノ経験の有無やレベルについてのアンケート 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」を実施し、一人ひとりのレベルに応じたクラス分けを行った。各学生の演奏技術のレベルに応じた課題と進行計画を学生と話し合いのうえで設定し個別指導を行うこ とで、技術習得への意欲を高めるように努めた。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育日標は達成されましたか。達成された~達成されなかつたのいすれか を選んでください。観点別の達成状況は,該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。		ハて、学生が授業時間以外1				
*根拠として,成績(トータルの成績,行動目標あるいはDP別)の半均値や分 布(煙進偏差 S A B C Dの度数) 独自に設けた其進による達成度 学生	であった。ピアノ奏法の実持	支試験においては全学生が	奏法のレベルを上げることが	「でき、ピアノ経験なしの学生	生も基礎的な演奏技術を身	そうだと思う」26%との回答 こつけることができたと判断 定程度の習得レベルに到達
<授業評価の指標>						

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 ①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は1年次開講科目であり、保育専門科目の受講に対する動機づけにつながるという点で重要な科目であると考える。教育目標においてはピアノ奏法のレベ ルによる目標設定を行ったが、授業内容としては歌唱や人の前に立って表現活動を行ことを取り入れた。また、学習準備性において個人差が大きかったものの、授 業への取り組み、達成状況においてはある一定の成果が得られたことから、内容的には妥当であると判断できる。

②DP、行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性には問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 く授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学督量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など 「投業の質の評価」「学をのための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など 「被据的評価と来年度に向けての課題 7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成接自己評価の結果と日々の学生の取り組みの様子から、教育目標は一定程度達成できたと考えられる。本科目は1年次のみの開講であり2年次以降は個人の努力でさらにピアノ奏法のレベル向上に努めていくことが求められることから、学生の技術習得への意欲を高め、自発的練習につながるようさらに工夫していくことを来年度の課題としたい。

学科	福祉学科
氏名	平野 宏美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育の表現技術Ⅲ	2	前期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
該国にU	×	×	×	0	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること, 重点をおいたことを	こ記入くたさい。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かした	こかを、「受講動機
なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画	動を立てた場合は
これをどう具体化したかを併せてご記入ください。	
<授業評価の指標>	

①学生の受講動機は必修科目であることが92%、資格取得のためが46%とほとんどを占めるが、関心ある内容であることも15%いたので関心を高め、充実感を ^{銭」}味わえるように、実技実践を多くしていった。

②進路に迷う学生も少なくないことを考慮して、より、現場(保育所や幼稚園)の臨場感を伝達できるようにした。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された				やや達成された	
		はレポートや提出物の内容摂				

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

|達度は13名全員90点以上である。学生の自己評価到達度についても、DPの10項目において平均値が4, 5~4, 8であり、授業の質評価について5項目の平均| 値は4,8~5,0であった。ただ、学習量の評価としては0回1回等の低回数と6回以上の高回数の2極の分かれ、授業の記録については0回1回が90%を超えて いる。実践中心に行った結果ではあるが、記録が少ないというのは学生のスキルの向上のためにも避けたい事ではあるので今後記録の強化を行っていきたい。

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当	₹講動機と学習到達度の自己評価がそれなりにかみ合っていると判断する。必修科目としての受講ではあるが、到達度は高く、意欲をもって授業に臨むことができ
	ことが学生の自由記述から、うかがえる。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	実践、実技を行う際には記録の重要性を示すとともに、記録の時間や振り返りの時間を設け、確実に、記録を取り、授業内容の整理が行われるようにする。学生の意見については、種類多く実技の時間を設けたことが意欲につながったとの評価を得ている。現場と結び付く実技中心に進めていくことは今後も継続して行う方がよいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度の達成評価はほぼねらいを達成できた。しかし、限られた授業数の中で実践中心の内容を行うことは、学生個人の習熟度を深めていくことにつながりにくい のではないかと考える。次年度は技術と実践を結び付ける課題の与え方を行い、学生が内容を系統だって整理できるようにしていきたい。

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育課程論	3	前期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
改当に	×	0	0	0	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

保育士資格取得のための必須科目でありほぼ全ての学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際

上記の状況は例年変わらないため、授業準備においては、専門職として最低限必要な内容は必ず盛り込むことと、事例提示や取り上げるトピックについて受講学年 の興味・関心に沿ったものを準備するようにしている。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された		どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	
					のがあり、全ての学生へのフ	フィードバックについて、再
*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布、標準偏差、S. A. B. C. Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生	考する必要がある。また、記	果題の適切性についても疑い	義が上がっており、丁寧な訪	明を心がける必要がある。		

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |保育士資格取得のための必須科目であり、特に中・長期の保育計画について理解し、立案ができるようになることが最大の目標であることから、関連DPについては 性の評価を記入してください。 妥当であると考える。また、保育計画立案のためには、乳幼児の発達について理解していることが前提となる上に、実習に行く前に身につけておくべき内容であるこ とも含めて、CP, カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考える。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 と授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

7. 総括的計画と木牛及に向けての味趣	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	特に長期計画立案については、長期に渡る家庭学習が必要であることや、課題は多くなるため、それに対する不満を挙げられるが、保育士資格取得の上で特に4年制の保育士養成ということを踏まえると、就職後必ず必要となる内容であるため、教授内容を変更するわけにはいかない。また、授業の連絡に関しては入学時の学生の希望に沿って行なっている。合わせて今年度も学期当初から、家庭学習が長時間必要になるという説明はしていたが、来年度はさらに強調して説明する必要かあると考える。

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育原理	1	前期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
Ø∃ICO	0	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

保育士資格取得のための必須科目であり、ほぼ全ての学生の動機がそれに該当する。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の 一つである。

上記の状況は例年変わらないため、授業準備においては、専門職として最低限必要な内容は必ず盛り込むことと、事例提示や取り上げるトピックについて受講学年 |の興味・関心に沿ったものを準備するようにしている。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
		育目標は概ね達成できたと表 毎時間の小テスト等を取り <i>入</i>			生の主観的な達成度が低い	と考える。そのため、学習

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |保育士としての原理原則に関する知識教授を第一義とする講義系科目であることから、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは妥当なものである 性の評価を記入してください。 と考える。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講人数が13人ということもあり、比較的時間的な余裕を持って授業を進行できたが、先述した通り、学習のフィードバックについて検討する必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。学生の主観的達成度を成績水準と見合う形にする必要がある。

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育実習指導 I	3~4	三期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
nA = ICO	0	0	0	0	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり	リ大切にしていること、	里点をおいたこと	をこ記入くたさい。
開講時の学生の学	習準備性を示し、授業	計画にどう活かし	たかを、「受講動機」
なども参考にして記	述してください。昨年月	度に授業の改善計	画を立てた場合は、
これをどう具体化し	たかを併せてご記入く	ださい。	
<授業評価の指標	>		
「学修準備性」, 自日	由記述の意見など		

保育士資格取得のための必須科目であり、ほぼ全ての学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に 際して主体的・積極的動機づけを行うというよりは、必然的に受講している科目である。

学生の受講動機に関わらず、保育実習に行くための準備科目であるため、社会人としての基礎的なマナーから実習に必要な書類作成、実習の心がけ、基本的な保 育技術について教授する準備を整えた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された〜達成されなかったのいすれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。			る。学生の「到達度自己評価		点以上であり、学生の主観的	な達成度も概ね高いと考
*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。	える。保育実習後の施設か	らの評価、日誌をはじめと	する書類においても良好であ	あった。		
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当	保育士資格取得のための必須科目であり、学内の学びを総合的に実践の場で学ぶ機会であるため、上級学年での開講の必要がある。その点を踏まえて、DP、
	CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であると考える。

<授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」,自由記述の意見など

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	実習に行くために必要な知識・技術を身に着けるための科目であるため、必要な教授内容を系統的に配置し、進行した。講義だけでは、学生の理解に差が出るため、学習進度に合わせて4名の教員で授業時間外に個別に対応し、全体の授業進行を均一に保った。しかし、基本的な文章能力といった点については、学生間の差が大きく、次年度以降は基礎学力差に対する対応についても検討の必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	実習先からの評価、成績評価から概ね教育目標は達成できていると考える。学生の学力差に対する対応が今後の課題である。

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育相談支援	4	前期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
BA∃ICU	×	0	0	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標>

今年度から本科目を担当するようになった事もあり、子ども家庭福祉コースのカリキュラムの中で本科目がどの様な位置づけになっているか、学生の準備性につい 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」「ての知識が全くない状況であった。しかし様々な相談援助の専門家の中でも「保育士の専門性を活かした支援の方法」について、学びを深められるよう授業を展開 し、グループ活動・ディスカッションを行った。

4. 学生の目標達成状況について

「学修準備性」、自由記述の意見など

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された		どちらともいえない	やや達成された		
■仲(標準偏差,S,A,B,G,Dの度数),独自に設けた基準による達成度,学生 ■の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ		年生前期の科目であり、職員 得ることができた」3.7等、こ 専門分野について、学びを	深めたいと意欲を持つことが	科目と言うよりは、「知識を研加えて新たな視点を提供した ができた」について比較的高	推認、修正したり、新たに得る とという点で貢献できたので	ることができた」3.8、「事象 はないかと考えられる。ま

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 性の評価を記入してください。

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための

<授業評価の指標>

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は「保育関係科目」に位置しており、学科のCPとも合致した授業内容となっている。学生は本科目を「必修科目である」60.0%、「資格取得に必要である」 65.0%と評価しており、「関心のある内容」と答えた学生は5%に過ぎなかった。こうしたことが出席率の低さに表れているものと考えられる。そしてこの事が成績の平 均値に大きく関与しているであろう。学生の学習到達度評価としては3.5-3.8と比較的高く評価しており、実際多くの学生においてグループディスカッションに参加した 場合には、課題の評価はさほど低くなかった。まずはグループ活動やディスカッションへの参加、すなわち欠席者数を減らす事が本科目の基本条件となると言えるで あろう。次年度も同様の状況が見られるようであれば、学年配置等検討の余地があるかもしれない。

	本科目の保育関係科目における位置づけ、他の科目との関連性等が分からず、「すでに学んだ事」「まだ学んでいない事」などを適宜学生に確認しながら授業を行った。その点においては、授業計画通り進まなかった点もあると思われる。しかしながら授業の質評価においては各項目3.7-4.0であり、学生のニーズに合った教育内容であったと評価している。授業時間中に感想等を聞いてみると、「一つの事例や現象について、これだけ深く考えたことはなかった」といったものも見られたため、方法論的妥当性は一定程度担保できているものと捉えている。
<授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	
フ 松牛的部体 b 本年中に向けての理顧	

/. 総括的評価と米年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生に対して期待する事として、まずは授業への出席とグループディスカッションへの積極的参加を挙げたい。25名中14名が少なくとも1回以上欠席しているため、その分のマイナス評価が成績の平均値を大きく低下させたものと考えられる。一方教員側の課題としては、ある程度本科目の目的や位置づけが把握できたため、授業計画の立案や進め方の工夫が必要となろう。事例検討の時間やグループディスカッションンの時間配分等について調整していき、卒業後の保育実践に必要な視点を提供していく所存である。

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
法学概論	1	前期	選択	はい	58

2. 観点・DP上の位置

該当に〇	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	0	×	×	×	0

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

受講動機を見ると、「単位数を確保する」54.7%、「資格取得に必要である」35.8%、「関心のある内容である」22.6%であった。シラバス・イントロダクションにおいて、 権利擁護論(3年後期)および司法福祉論(4年前期)で扱う講義内容の基礎となる旨を述べていることが、ある程度影響していると思われるが、昨年度は履修者は16 名であったが、「資格取得に必要である」の回答者は66.7%であったことから、資格取得において重要度の高さが今一つ伝わっていないことが懸念される。ただ、保 健福祉学部3学科同時開講の科目のため、福祉に特化した授業内容にするのは困難であるが、学生が具体的なイメージを持ちやすい事例を挙げて、関心を引き付 けるように努めた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は,該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分 布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生 の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくださ

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための 情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

前期試験の平均点は70.16点で、再試対象者は8名、理想的レベル(80点以上)に達した者は14名であった。前期試験の出題形式は、昨年度より大幅に改め、従来 の知識理解を文章で論述する形式に加えて、重要な語句を解答する(いわゆる穴埋め)形式および具体的な事例に合わせて法的な知識理解に加えて、支援する態 度も併せて問う形式で出題した。履修者は昨年度より増加したが、とりわけ、知識理解の論述について、要点を適切に押さえきれていない答案が散見され、成績全 体にややばらつきが見られた。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は3.7、理解する視点や考え方 を得ることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値はともに3.5であった。なお、DPには含まれていないが、「専門分野について、学び を深めたいと意欲をもつことができた」、「専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値はともに3.5、「専門分野において、的確に判断する 力を得ることができた」の平均値は3.4であったことから、法学の知識が福祉の現場における問題解決に有用であることを学生がある程度理解できているのではない かと思われる。

5. DP. CP. カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

| DP. CP. カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当 |①CP.カリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、国家試験の試験科目ではないが、シラバスにも明記してある通り、福祉専門 科目である「権利擁護論」「司法福祉論」で学ぶ内容の基礎となる。また、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、人々を総合的に理解す るための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。②DP.行動目標から見ると、自己評価と成績に 相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考える。よって、内容的妥当性には問題ないと考える。

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 〈授業評価の指標〉 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.5であり、昨年度に比べて0.4ポイント低下しているが、これは履修者の増加の影響もあると思われる。他方、「学生が参加する機会が作られていた」の平均値が2.8とやや低い。これについては、講義の性質上、学生の参加の機会を設けるのは困難であると考えている。なお、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は3.1であった。今後は教員の業務の負担にならない程度で、学生の質問を促す方策を考えたい。学習量の評価について、講義内で予習・復習のやり方について説明したが、全く予習をしなかった学生は24名、全く復習をしなかった学生は23名で、半数以上の学生が最低1度は予復習を行っている。授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習について「教科書を読む」「プリントに書いたメモを見やすく書き直した」「インターネットで検索」「復習をした」「予習した」「図書館で語句等を調べた」などを行っている学生がいる一方で、授業以外に学習していない理由として「レジュメにだいたい書いてあるから」「時間がなかった」「他の課題で忙しかったから」という意見が見られた。学生の意見については、「分からない言葉を分かりやすく身近なものに例えるところが良かった」、「レジュメも説明もとてもわかりやすかったです」との意見があった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

7. 総括的評価と米年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、人間を総合的に理解するための基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣の定着と、学生からの質問を促す方策を検討したいと考えている。